

や ち い せ き
屋 地 遺 跡 II

—— 国補中小河川蛭川改修事業地点 ——

1990・3

長 野 市 教 育 委 員 会

序

長野市松代町は、昭和41年の2市3町3か村の合併により長野市に編入され現在に至っています。もとは地科郡松代町であり、真田10万石の城下町として発展して来た史跡の町であります。そしてこの町は、近世ばかりでなく、原始・古代よりその歴史事象を追い求めることができる一歴史空間を有しており、古くより注目されてきた地域でもあります。特に古墳時代においては東日本で屈指の群集化をはこる大冢古墳群があり、皆神山周辺の遺跡や古墳などに他地域と趣きを異にする様相が見受けられるなど古代史研究上かかせない数多くの埋蔵文化財包蔵地が周知されております。

このような歴史背景の中に今回調査した埴地遺跡があります。この地は昭和51年に皆神山団地造成に伴う発掘調査が実施され、弥生時代から平安時代に至る複合遺跡であることがわかりました。それは先に記しました古墳の造営やそれ以降の松代地域の開発発展にかかわる重要な集落跡の存在を示唆するものでありました。今度の埴川改修事業地点は、この地に隣接するもので、内容を更に充実できるものと考え事業に先立って発掘調査を実施いたしました。

本書は、その成果を要約し、長野市の埋蔵文化財第36集として報告するものです。この報告書が地域古代史の解明や文化財保護の一助として、学術的に関係各方面に広くご活用いただければ幸に存じます。

最後に、発掘調査から報告書刊行に至るまで公私にわたり多大なご援助・ご指導を賜りました関係諸機関ならびに各位に心からお礼申し上げます。

平成2年3月

長野市教育委員会教育長 奥村秀雄

例 言

- 1 本書は、長野市松代町東条に所在する屋地遺跡における国補中小河川姪川改修事業にともない実施した埋蔵文化財発掘調査報告書である。
- 2 本書は、長野県企業局・日本窯業史研究所より昭和52年に『長野市松代屋地遺跡』が刊行されているので『屋地遺跡II』と題した。
- 3 本書は、調査によって確認検出された遺構・遺物を中心に、その基本資料を提示することに重点をおいた。
- 4 遺構図は、コーディングシステム法により御写真測図研究所に委託し、遺構図結線は当センターで実施した。1/20の縮尺で基本図をとり、1/60の縮尺を基本にして、詳細を要するものは1/20で図示した。遺構断面図に標高値を記した。
- 5 土器類については、1/4で図示し、石器・金属製品・土製品・骨角器等は1/2である。
- 6 遺物実測図中、断面をつぶしてあるものは須恵器（灰輪陶器）、白抜きものは土師器を表現する。
- 7 本文中の調査日誌・遺構分布図等に略号を用いた。SBは住居址、SKは土壘（墓）、SDは溝址、SZは性格不明の遺構の意味である。
- 8 調査にかかわる諸資料は、長野市埋蔵文化財センターに保管している。

目 次

序	
例言	
I 調査の経過	1
1 調査に至る経過	1
2 調査日誌	1
3 調査の体制	5
II 調査地周辺の環境	6
III 調査	14
1 遺構と遺物の分布	14
(1) 昭和51年の発掘調査	14
(2) 平成元年度の調査	17
2 縄文時代の遺構と遺物	18
3 弥生時代の遺構と遺物	18
(1) A 8号住居址	18
(2) A14号住居址	21
(3) A18号住居址	23
4 古墳時代の遺構と遺物	24
(1) Y 4号住居址	25
(2) A 6号住居址	26
(3) A 9号住居址	27
(4) A10号住居址	29
(5) A12号住居址	31
(6) A15号住居址	33
(7) A16号住居址	34
(8) A19号住居址	35
(9) A23号住居址	37
00 A24号住居址	37
01 A25号住居址	40
02 B20号住居址	40
03 B21号住居址	41
04 B23号住居址	44
05 B24号住居址	45
06 B28号住居址	47
07 B29号住居址	48
08 B30号住居址	52
09 B31号住居址	54
00 B33号住居址	55
01 B34号住居址	57
02 B36号住居址	57
03 B32号住居址	58
04 B 9号土墳	59
05 B10号土墳	61
06 B11号土墳	65
07 B12号土墳	66
08 B13号土墳	66
09 A 1号溝址	66
5 奈良・平安時代の遺構と遺物	67
(1) Y 1号住居址	67
(2) Y 2号住居址	68
(3) Y 3号住居址	68
(4) Y 5号住居址	69
(5) A 1号住居址	71
(6) A 2号住居址	73
(7) A 3号住居址	75
(8) A 4号住居址	76
(9) A 5号住居址	77
00 A 7号住居址	78
01 A11号住居址	80
02 A13号住居址	80
03 A17号住居址	81
04 A20号住居址	82
05 A21号住居址	84
06 A22号住居址	84
07 B 1号住居址	86
08 B 2号住居址	89
09 B 3号住居址	90
00 B 4号住居址	91
01 B 5号住居址	92
02 B 6号住居址	93

03	B 7号住居址	93	05	B 2号土壙	118
04	B 8号住居址	94	06	B 3号土壙	119
05	B 9号住居址	95	07	B 4号土壙	119
06	B10号住居址	96	08	B 5号土壙	119
07	B11号住居址	96	09	B 6号土壙	119
08	B12号住居址	98	10	B 7号土壙	120
09	B13号住居址	100	11	B 8号土壙	120
10	B14号住居址	100	12	Y地区ビット群	120
11	B15号住居址	101	13	A地区ビット群	120
12	B16号住居址	103	14	B地区ビット群	120
13	B17号住居址	103	15	Y 1号溝址	122
14	B18号住居址	106	16	B 1号溝址	122
15	B19号住居址	107	17	B地区土器集中出土地	122
16	B22号住居址	108	6	骨角製品・石製品・土製品・鉄製品・銅製品	123
17	B25号住居址	108	7	屋地遺跡出土の人骨及び獣骨	127
18	B26号住居址	109	1.	人骨—B 1号土壙墓	127
19	B27号住居址	113	2.	獣骨	127
20	B35号住居址	113	8	出土土器観察表	131
41	A 1号集石址	113	IV	結語	139
42	A 2号集石址	113		遺物写真図版	
43	A 3号集石址	116			
44	B 1号土壙墓	118			

挿 図 目 次

- 1	A地区遺構検出作業	1	- 1 8	Y 4号住居址出土土器実測図	25
- 2	A地区トレンチ遺構検出作業	2	- 1 9	A 6号住居址実測図	26
- 3	A地区2号住居址の調査	2	- 2 0	A 6号住居址出土土器実測図	26
- 4	A地区集石2・3の調査	2	- 2 1	A 6号A 5号住居址	26
- 5	B地区上層の調査	2	- 2 2	A 9号住居址、土壌実測図	27
- 6	B地区上層の調査	3	- 2 3	A 9号住居址、土壌	27
- 7	Y地区の調査	3	- 2 4	A 9号住居址出土土器実測図	28
- 8	A地区下層の調査	3	- 2 5	A 9号住居址カマドない出土土器	28
- 9	B地区下層の調査	3	- 2 6	A 10号住居址実測図	29
- 1 0	発掘調査参加者	4	- 2 7	A 10号住居址	29
			- 2 8	A 10号住居址出土土器実測図	30
- 1	皆神山周辺の航空写真	6	- 2 9	A 12号住居址実測図	30
- 2	皆神山周辺の地形図	6	- 3 0	A 12号住居址出土土器実測図	30
- 3	調査地遠景(象山より)	7	- 3 1	A 12号A 6住居址、A 7号土壌	30
- 4	調査地近景(上流より)	7	- 3 2	A 15号住居址(南より)	31
- 5	調査地近景(東より)	7	- 3 3	A 15号住居址(東より)	31
- 6	皆神山周辺の主要遺跡分布図	8	- 3 4	A 15号住居址実測図	32
- 7	皆神山周辺の字名	9	- 3 5	A 15号住居址(北より)	32
			- 3 6	A 15号住居址出土土器実測図	33
- 1	大日池下の調査(X地区)	14	- 3 7	A 16号住居址実測図	34
- 2	調査地及び遺構分布図	15	- 3 8	A 16号住居址	34
- 3	遺構分布図及び土層図	16	- 3 9	A 16号住居址出土土器実測図	35
- 4	B地区上面の遺構検出状況	17	- 4 0	A 19号住居址実測図	35
- 5	A 8号住居址実測図	18	- 4 1	A 19号住居址	35
- 6	A 8号住居址	19	- 4 2	A 19号住居址内集石	36
- 7	A 8号住居址出土土器拓影	19	- 4 3	A 19号住居址出土土器実測図	36
- 8	A 8号住居址住居址出土 土器実測図	20	- 4 4	A 23号住居址実測図	37
- 9	A 14号住居址実測図	21	- 4 5	A 23号住居址出土土器実測図	37
- 1 0	A 14号住居址	21	- 4 6	A 24号住居址実測図	38
- 1 1	A 14号住居址出土土器実測図	22	- 4 7	A 25号住居址実測図	39
- 1 2	A 14号住居址出土土器拓影	22	- 4 8	A 25号住居址	39
- 1 3	A 18号住居址実測図	23	- 4 9	A 24・25号住居址出土土器実測図	40
- 1 4	A 18号住居址住居址A 7号土壌	23	- 5 0	A 25号住居址出土土器実測図	40
- 1 5	A 18号住居址出土土器拓影	24	- 5 1	B 20号住居址出土土器実測図	40
- 1 6	Y 4号住居址実測図	25	- 5 2	B 20号住居址実測図	40
- 1 7	Y 4号住居址	25	- 5 3	B 20号住居址	41
			- 5 4	B 21号住居址実測図	41

- 5 5	B 21号住居址	42	- 9 2	B 10号土壤实测图	61
- 5 6	B 21号住居址出土土器实测图	43	- 9 3	B 10号・B 11号土壤	61
- 5 7	B 23号住居址出土土器实测图	44	- 9 4	B 10号・B 11号土壤	62
- 5 8	B 23号住居址实测图	44	- 9 5	B 10号・B 11号土壤	63
- 5 9	B 23号・B 24号住居址	44	- 9 6	B 10号土壤出土土器实测图(1)	63
- 6 0	B 24号住居址住居址	45	- 9 7	B 10号土壤出土土器实测图(2)	64
- 6 1	B 24号・B 23号・B 29号住居址	45	- 9 8	B 10号土壤出土土器实测图	65
- 6 2	B 24号住居址土器出土状态	46	- 9 9	B 13号土壤出土土器实测图	66
- 6 3	B 24号住居址出土土器实测图	46	- 100	A 1号溝址出土土器实测图	66
- 6 4	B 28号住居址实测图	47	- 101	A 1号溝址实测图	66
- 6 5	B 28号住居址	47	- 102	Y 1号住居址实测图	67
- 6 6	B 28号出土土器实测图	48	- 103	Y地区遺構全景	67
- 6 7	B 29号住居址实测图	48	- 104	Y 2号住居址出土土器实测图	68
- 6 8	B 29号住居址、同遺物出土状态	49	- 105	Y 3号住居址出土土器实测图	68
- 6 9	B 29号住居址出土土器实测图	50	- 106	Y 1号・Y 2号住居址、Y 1号溝址	68
- 7 0	B 30号住居址实测图	51	- 107	Y 3号住居址实测图	69
- 7 1	B 30号住居址	51	- 108	Y 3号住居址	69
- 7 2	B 30号住居址力マド土器出土状态	52	- 109	Y 5号住居址实测图	70
- 7 3	B 30号住居址出土土器实测图	52	- 110	Y 5号住居址、Y 1号溝址	70
- 7 4	B 31号住居址实测图	53	- 111	Y 5号住居址内集石	71
- 7 5	B 31号住居址	53	- 112	Y 4号住居址上面出土土器实测图	71
- 7 6	B 31号住居址出土土器实测图	54	- 113	Y 5号住居址出土土器实测图	71
- 7 7	B 33号住居址	54	- 114	A 1号住居址出土土器实测图	72
- 7 8	B 33号住居址实测图	55	- 115	A 1号住居址实测图	72
- 7 9	B 33号住居址出土土器实测图	55	- 116	A 1号住居址	72
- 8 0	B 34号住居址出土土器实测图	56	- 117	A 2号住居址实测图	73
- 8 1	B 34号住居址实测图	56	- 118	A 2号住居址集石	73
- 8 2	B 34号住居址、B 6号土壤	56	- 119	A 2号・A 1号住居址	74
- 8 3	B 36号住居址出土土器实测图	57	- 120	A 2号住居址出土土器实测图	74
- 8 4	B 36号住居址实测图	57	- 121	A 3号住居址实测图	75
- 8 5	B 36号住居址	57	- 122	A 3号住居址	75
- 8 6	B 32号住居址实测图	58	- 123	A 3号住居址出土土器实测图	76
- 8 7	B 32号住居址出土土器实测图	58	- 124	A 4号住居址出土土器实测图	76
- 8 8	B 32号・B 21号住居址	58	- 125	A 4号住居址实测图	76
- 8 9	B 9号土壤实测图	59	- 126	A 5号住居址实测图	77
- 9 0	B 9号土壤土器出土状态	59	- 127	A 5号住居址	77
- 9 1	B 9号土壤出土土器实测图	60	- 128	A 5号住居址出土土器实测图	78

- 129	A 7号住居址实测图	78	- 166	B 7号住居址出土土器实测图	93
- 130	A 7号实测图力マド	78	- 167	B 8号住居址实测图	94
- 131	A 7号住居址	79	- 168	B 8号住居址	94
- 132	A 7号住居址出土土器实测图	79	- 169	B 9号住居址实测图	95
- 133	A 11号住居址	80	- 170	B 9号住居址	95
- 134	A 11号住居址出土土器实测图	80	- 171	B 9号住居址出土土器实测图	96
- 135	A 13号住居址实测图	80	- 172	B 10号住居址实测图	96
- 136	A 13号住居址出土土器实测图	81	- 173	B 10号住居址出土土器实测图	97
- 137	A 17号住居址实测图	82	- 174	B 11号住居址	97
- 138	A 17号住居址	82	- 175	B 11号住居址实测图	97
- 139	A 20号住居址实测图	83	- 176	B 11号住居址出土土器实测图	98
- 140	A 20号住居址	83	- 177	B 12号住居址	98
- 141	A 20号住居址出土土器实测图	84	- 178	B 12号住居址实测图	99
- 142	A 21号住居址实测图	84	- 179	B 12号住居址出土土器实测图	99
- 143	A 21号住居址	85	- 180	B 13号・B 14号住居址	99
- 144	A 21号住居址出土土器实测图	85	- 181	B 13号住居址实测图	100
- 145	A 22号住居址实测图	86	- 182	B 13号住居址出土土器实测图	100
- 146	A 22号住居址	86	- 183	B 14号住居址出土土器实测图	100
- 147	A 22号住居址、同力マド	87	- 184	B 14号住居址壁石積状態	100
- 148	A 22号住居址出土土器实测图	87	- 185	B 15号住居址实测图	101
- 149	B 1号住居址实测图	88	- 186	B 15号住居址	101
- 150	B 1号住居址	88	- 187	B 15号住居址集石土器出土状态	102
- 151	B 1号住居址出土土器实测图	89	- 188	B 15号住居址出土土器实测图	102
- 152	B 2号住居址实测图	89	- 189	B 16号住居址出土土器实测图	102
- 153	B 2号住居址	89	- 190	B 16号住居址实测图	102
- 154	B 2号住居址出土土器实测图	89	- 191	B 17号住居址实测图	103
- 155	B 3号住居址出土土器实测图	90	- 192	B 17号住居址、同力マド	104
- 156	B 3号住居址实测图	90	- 193	B 18号・B 17方住居址	104
- 157	B 3号住居址	90	- 194	B 17号住居址出土土器实测图	105
- 158	B 4号住居址实测图	91	- 195	B 18号住居址实测图	106
- 159	B 5号住居址	91	- 196	B 18号住居址出土土器实测图	106
- 160	B 5号住居址出土土器实测图	92	- 197	B 19号住居址实测图	107
- 161	B 5号住居址实测图	92	- 198	B 19号住居址出土土器实测图	107
- 162	B 7号住居址	92	- 199	B 19号住居址	107
- 163	B 6号住居址实测图	93	- 200	B 22号住居址出土土器实测图	108
- 164	B 7号住居址实测图	93	- 201	B 22号住居址实测图	108
- 165	B 6号住居址出土土器实测图	93	- 202	B 25号住居址	108

- 203	B 25号住居址出土土器実測図	109
- 204	B 26号住居址カマド実測図	110
- 205	B 26号住居址出土土器実測図	110
- 206	B 25号住居址	111
- 207	B 26号住居址	111
- 208	B 27号住居址	111
- 209	B 27号住居址実測図	112
- 210	B 35号住居址実測図	112
- 211	B 27号住居址出土土器実測図	112
- 212	B 35号住居址出土土器実測図	112
- 213	A 1号集石址	113
- 214	A 2号集石址実測図	114
- 215	A 2号集石址	114
- 216	A 2号集石址出土土器実測図	115
- 218	A 3号集石址	116
- 219	A 3号集石址実測図	116
- 220	B 1号土墳墓	117
- 221	B 8号土墳	117
- 222	Bピット群	117
- 223	B地区土墳実測図	118
- 224	B 5号・B 6号・B 7号 ・ B 8号土墳出土土器実測図	119
- 225	B地区ピット4・6・15・14 ・ 20・21・28出土土器実測図	120
- 226	Bピット群実測図	121
- 227	B地区土器集中出土土器実測図	122
- 228	遺構外出土古墳時代須恵器実測図	122
- 229	骨角製品実測図	123
- 230	石製品・土製品実測図	124
- 231	土製品・石製品・鉄製品 ・ 銅製品実測図	125
- 232	鉄製品・石製品・銅製品実測図	126

I 調査の経過

1 調査に至る経過

昭和63年7月29日付 「昭和64年度県道・国道・河川改修等の開発事業計画について（照会）」

8月10日付 長野建設事務所長（以下関連事業課）より「国補中小河川改修」外10件の事業計画の回答がある。本件を長野県教育委員会文化課長（以下県教委）宛送達。

10月31日 県教委・長野市教育委員会埋蔵文化財センター（以下市埋文センター）・関連事業課担当職員による埋蔵文化財保護協議を実施。

12月10日付 長野県教育委員会教育長より長野建設事務所長あて「国補中小河川経川改修事業に伴う長野市市地遺跡の保護について（回答）」あり、その内容は「本遺跡保護については、事前に発掘調査を実施し、記録保存をはかる。発掘調査に伴う経費は、事業主体者が負担する。発掘調査は、長野市教育委員会に委託する。（以下略）」である。同日付で、長野市教育委員会あて受託するよう通知がある。調査対象面積17400㎡のうち1800㎡以上を発掘調査を実施し、その発掘作業47日、整理作業47日を見込み、調査に要する費用は11,500,000円の調査計画書の提示がある。市埋文センターでは、昭和64年度（平成元年度）に予算計上する。

平成元年5月1日付 「埋蔵文化財発掘調査委託契約書」を締結。

5月9日付 文化財保護法57条の3第1項の規定による「埋蔵文化財発掘の届出」があり、6月1日付で送達。同日付 文化財保護法第98条の2第1項の規定による「埋蔵文化財発掘調査の通知」を提出。

2 調査日誌

平成元年5月19日 長野市松代支所長宛、作業員募集について依頼。

5月22日 松代町13・14・18・33区長と作業員募集について打ち合せ、募集要項の回覧・回収を依頼。

5月30日 調査参加希望者名簿を回収。翌日参加希望者宛、調査案内通知を発送。

5月29日～6月5日 重機等にてA・B地区の表土除去作業を実施。

6月5日 調査開始にあたって、挨拶・調査方法等の説明を行う。A地区の残土処理及び遺構プランの検出作業を実施。

6月6日、草かき・両刃鎌にて遺構検出作業を終日行う。砂利を多含し、プランの確認は容易でない。

6月7日 昨日の調査を継続。乾燥が著しく散水し、再度遺構検出作業を実施。

6月8日 B地区下方3分の1程の残土処理後、A地区住居址（SB1・3・5）の調査を開始。

6月9日 A地区上方の遺構確認のため幅1mのトレンチ3本を設定。

6月12日 トレンチ調査を継続。



I-1 A地区遺構検出作業（6月7日）

6月13日 Aトレンチを中心に焼土・集石が確認されたため、周辺を拡張。

6月14日 トレンチ調査継続。SB1-3調査継続。新たに集石1・2の調査を開始。

6月15日 SB1・3壁・床面の追求、SB2礎頭露出作業、SB5プランの追求、集石1・2礎頭の検出。集石3調査開始。

6月16日 梅雨入後本格的な降雨にて作業中止。

6月19日 A・B地区下方の遺構検出作業を再開するも不明瞭。SB1-3・5調査継続。SB6・7の調査開始。土器洗浄作業。集石2・3写真撮影。

6月20日 SB2・3・5-7調査継続。SB8-10・SK1-6調査開始。集石3拡張。

6月21日 SB1・2・9土層、SB3カマド実測。SB2集石、SB1・9、集石1の写真撮影。SB3土層観測ベルト除去。SB4北端部整形拡張。SB7・10調査継続。B区下方の遺構検出。

6月22日 SB2、集石1礎除去。集石2礎頭の検出。SB10、Aトレンチ焼土のプラン追求。集石3、SK3の礎実測。

6月23日 SB2・9床面を追求。集石2礎露出作業、プランの追求、周辺部の拡張。SB12調査開始。午後雨にて土器洗浄作業。

6月26日 SB8-10床面の追求。SB12プランの追求、調査継続。集石3礎実測。A区上面全体の清掃後写真撮影。

6月27日 B区上半の残土処理。SB11・12床面追求。集石2・3礎除去及びプランを追求。B地区SB1調査開始。

6月28日 雨にて作業中止。

6月29日 集石2・3の調査後写真撮影。B地区SB2・4・5調査開始。A地区遺構測量。

6月30日 A地区SB13周辺の清掃後写真撮影、土器の取り上げ。B地区1-5調査継続。

7月3日 A地区集石1南側拡張区プラン追求。B地区SB1礎除去、SB2調査区壁際残土処理後掘り下げ。SB3・4調査継続。SB1-4周辺のピット群の調査開始。



I-2 A地区トレンチ遺構検出作業(6月13日)



I-3 A地区2号住居址の調査(6月19日)



I-4 A地区集石2・3の調査(6月23日)



I-5 B地区上層の調査(6月29日)

7月4日 A地区SB10南拡張。集石1の下部遺構の追求。B地区ビット群、SB1～7の調査を進める。SB1を切るSK1より人骨出土。

7月5日 バックホー等によるY地区の表土除去。A地区SB10南の遺構を追求するも不明。B地区SB6～11の調査継続及びプランの追求。SK1人骨の精査。SB1、SK1写真撮影。

7月6日～19日 バックホー等によりA・B地区の下部遺構層までの土砂掘削及び搬出作業を実施。

7月6日 B地区SB8～11調査継続。SB1～7、ビット群清掃後写真撮影。SK1人骨、SB1集石の実測。

7月7日 B地区SB8・9・11調査継続。SB12～14、SK5プラン確認後調査開始。SB7・8写真撮影。SB6～8ライン土層実測。

7月10日 降雨確立70%のため作業中止。

7月11日 B地区SB15・16、SK6・7プラン確認後調査開始。他は調査継続。SB9・10写真撮影。人骨の取り上げ作業。

7月12日 B地区SB12～16覆土掘り下げ床面を追求。SK6調査継続。

7月13日 雨にて作業中止。

7月14日 B地区SB12～15、SK6精査後、写真撮影・遺構測量作業。Y地区及びA地区下層の残土処理。

7月17日 A地区下層の遺構プラン確認作業。

7月18日 B地区下層下半の残土処理。Y地区遺構にかかる砂利層の掘削。

7月19日 Y地区調査継続。大日池下(北)方の事業地内(X地区)にバックホーにてトレンチ調査を実施するも、表土下礫層にて遺構は存在しない。

7月20日 Y地区SB1～4、SK1～3、SD1・2精査後写真撮影。A地区下層SB14・15・17・18調査開始。

7月21日 昨日の調査を継続。新たにSB16・20～22調査開始。

7月22日 A地区15・16・20～22調査継続。B地区、下層上半の残土処理。



I-6 B地区上層の調査(7月11日)



I-7 Y地区の調査(7月18日)



I-8 A地区下層の調査(7月21日)



I-9 B地区下層の調査(7月26日)

7月25日 S B15 礫・炭化物等の検出後写真撮影。S B17・18柱穴の調査。S B19～22調査継続。S B23～25調査開始。

7月26日 S B14～18精査後写真撮影。S B19～25調査継続。

7月27日 Y地区S B5 砂利層除去。A地区S B15・19・22・24・25床面追求。S B21・18以北の遺構写真撮影。B地区下層上半の遺構確認作業を実施。

7月28日 Y地区S B5、A地区S B19・22・24・25調査継続。B地区下層下半の遺構プランの追求を行い、S B17・26調査開始。

7月31日 A地区S B24・25の精査。S B20・23写真撮影。B地区S B17・26調査継続。S B20～23調査開始。

8月1日、昨夜来の雨のため午前中土器洗浄作業。A地区全体写真撮影。B地区S B19調査開始の他は調査継続。

8月2日 B地区17～22調査継続。S B25調査開始。

8月3日 B地区S B17・19・20・22・24～26調査継続。S B24・27、S K10調査開始。A地区遺構測量。

8月4日 B地区S B24～27、S K10調査継続。S B28～30調査開始。S B17・19・21、S K8清掃後写真撮影。

8月7日 B地区S B20・24・27・28、S K6精査。S B18・30・32・34調査開始。S B25・26、S K9・10写真撮影。

8月8日 B地区S B18・24・29・30・31・34調査開始。S B23・24・26写真撮影。

8月9日 B地区S B18・22・30・32・33・35・36調査継続。S B29・30、S K9写真撮影。S K8集石、S B23カマド、S K10土器集中地実測。

8月10日 B地区S B22・33・35・36調査継続。S B17・22～27清掃後写真撮影。S B17・23・29・30カマド実測。遺構測量。

8月11日 B地区S B22・33・36精査、S B23～25及びA地区S B20・22の礫除去後写真撮影。遺構測量。本日にて発掘調査を終了。

8月16日 B地区遺構図の結線。

8月17日 B地区遺構測量及び結線・細部実測をもって現地に於る作業を完了する。



I-10 発掘調査参加者

3 調査の体制

長野市教育委員会埋蔵文化財センターの直轄事業として実施し、組織・業務分担は以下のとおりである。

調査主体者	長野市教育委員会教育長	奥村秀雄
総括責任者	長野市埋蔵文化財センター所長	水沢国男
庶務係	〃	主幹・所長補佐 小山正(契約・出納事務担当)
〃	〃	職員 青木厚子(〃)
調査係	〃	調査係長(調査主任) 矢口忠良(石器等実測・整図)
〃	〃	主事 青木和明(遺構・遺物整理)
〃	〃	〃 千野浩(〃・ 〃 実測・整図)
〃	〃	職員(調査員) 中殿章子(〃 整理・土器実測・整図)
〃	〃	〃 横山かよ子(遺物整理)
〃	〃	〃 今井悦子(〃)
〃	〃	専門主事 小松安和(〃)
〃	〃	〃 中沢克三(〃)
〃	〃	〃(調査員) 大室 昂(〃)
特別調査員	信州大学医学部第二解剖学研究室	西沢寿晃(人骨・獣骨鑑定等)
〃	愛知学院大学歯学部	宮尾 嶺雄(〃)
調査員	東京経済大学学生	原 正 樹(測量・図面整理)
〃	関西大学学生	飯島 哲也(骨角器・土器実測)
調査作業員	阿部吉次郎・伊藤みすゞ・上田清・上田富子・小林誠司・小林利男・酒井園衛・岡崎文子・地代所洋子・塚田道三・中島三郎・西川一郎・野村芳子・平林美知子・松田とく江・丸山トキ子・水澤常子・宮坂みつ子・宮下光雄・村松正子・山口敏子・相沢直江・青木幸子・永井深雪・小林久恵・堀内ます子・親松とめこ・橋爪孝次・小山つね子・丸山清・白鳥忠四・中島あけ美・伊藤恵・黒瀬明美・小林悦子・宮下豊・富沢よし子・黒岩恵美子・矢崎ふたば・柳原澄子・山田和子・中村幸子	
遺構測量委託	御写真測図研究所	

以上、直接発掘調査に参加された方々のほかに、長野県教育委員会文化課指導主事小林秀夫・見玉卓文・百瀬長秀、長野建設事務所主任今井長郎・新井孝幸、長野市役所松代支所長宮本武・総務課長坂口秀夫、松代町第13区長吉池元視・14区長小林忠次・18区長中村道治、33区長金子敏之、北信土建柳木下茂各氏には発掘調査実施に際し多大なご援助・ご指導をいただいた。また愛知県陶磁資料館主任学芸員浅田員由・学芸員仲野泰裕各氏には、灰輪陶器等について御教示いただいた。記して感謝申し上げます。

II 調査地周 辺の環境

調査地である松代町は、普光寺平（長野盆地）東端に位置し、真田10万石の城下町として発展してきた。古くは『和名抄』に記載の「英多（あがた）郷」、「吾妻鏡」にみる「英多庄」と呼ばれた。

松代町のシンボリックな山が皆神山（標高642m）で、截頭円錐形をした火山性の独立山である。中世から近世にかけ修験道場としての信仰の山であり、近くは松



II-1 皆神山周辺の航空写真



II-2 皆神山周辺の地形図 (1:50,000)

代群発地震の震源地としても著名な山である。

調査地は、この山の北西麓に位置し、標高約371mである。この地は、蛭川(関屋川)による扇状地扇尖部の東端にあたり、北に傾斜する。字名を見ると大日堂南・上屋地・皆神山西平にあたる。ちなみに屋地遺跡とは、屋地地籍で最初に遺跡が確認され、蛭川現流路東側一帯に展開する扇状地上の埋蔵文化財包蔵地を呼称する約束事に由来する。

調査地に隣接して人造の大日池がある。この水は、皆神山からの湧水(松井の泉)をためたもので、下流51町6反歩(約51.2ha)の灌漑用水に給されたとき、今でも上水道用として一部採水されてはいるものごとんと湧き出ている。この湧水こそ蛭川による荒地に弥生時代以降人々が定住する基礎となり、また水稻栽培を生業とする生産地の拡大に重要な役割をはたしていたものと思われる。

さて大日池を境として地目的・地形的に大きな変化が見られる。上流側(南)が畑や果樹園として利用される傾斜面に対して、下流側(北)は、水田となり窪地化し、3m近い段差を生じている。これは古代からの地形をそのまま受け継いでいるものと思われ、現在と同様の土地利用がなされていたものと考えられる。



II-3 調査地遠景(象山より)



II-4 調査地近景(上流より)

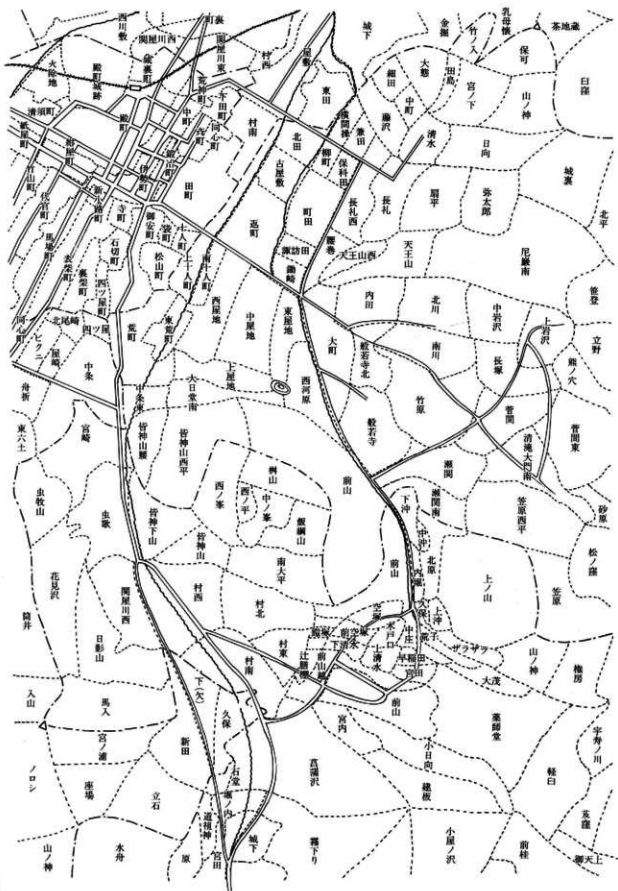


II-5 調査地近景(東より)



II-6 皆神山周辺の主要遺跡分布図

1 厚地遺跡 2 皆神山遺跡 3 麻島遺跡 4 松原遺跡 5 中条遺跡 6 般若寺遺跡 7 舞鶴山古墳1・2号墳 8 長礼山古墳1・2号墳 9 天王山古墳 10 竹原笹塚古墳 11 菅間王家古墳 12 菅岡古墳群 13 牧内古墳群 14 桑根井空塚古墳 15 館塚古墳群 16 村北古墳群 17 虫歌・宮崎古墳群 18 小丸山古墳 19 中村遺跡 20 松代城北遺跡 21 天王山照壁 22 牧内室址



II-7 皆神山周辺の字名

皆神山周辺の遺跡地名表(1)

番号	遺跡名	所在地	立地	遺構・遺物	文献	備考 (所蔵者)
00	宮崎遺跡	松代・豊栄		(縄)磨石 (弥)箱清水式 (平)土師器、須恵器 (中)内耳土器		
6	般若寺遺跡	"・東条・般若寺	山麓	(縄)石鏃 (平)箱清水式 (平)土師器、須恵器		
2	皆神山遺跡	" 皆神山	山頂	(縄)石鏃、打石斧 (弥)太形蛤刃石斧・石槌・扁平片刃石斧		豊栄小学校
	大久保遺跡	" 大久保	山腹	(平)土師器、須恵器		
	地蔵峠遺跡	" 地蔵峠	"	(先)尖頭器 (縄)特殊磨石		
	滝本新田遺跡	" 滝本新田	"	(平)須恵器		
	関屋遺跡	" 関屋	段丘	(弥)中期土器		
	桑根井原遺跡	" 桑根井原	台地	(古)土師器 (平)土師器、須恵器		
	打穴沢遺跡	" 打穴沢	山腹	(弥)箱清水式 (平)土師器、須恵器		
22	牧内窯跡	" 牧内	"	(平)須恵器		
	大村遺跡	"・清野・道島	自然堤防	(弥)後期土器 (平)土師器 (中)内耳土器		
	宮村遺跡	"	"	(平)土師器、須恵器、灰釉陶器		
	林正寺遺跡	"	"	(平)土師器 (中)内耳土器		
3	鹿島遺跡	" 西条・鹿島	扇状地	(縄)打石斧、凹石、石皿		
19	中村遺跡	" " 中村	"	(縄)後・晩期土器 (弥)箱清水式 (古)土師器、石製模造品、刀子 (平)土師器、須恵器 (昭53年発掘)	※1	長野市教委
5	中条遺跡	" " 中条	"	(縄)加曾利E式、磨石斧、石刃 (弥)竪穴住居7、土壇1、溝1 吉田式、箱清水式、太形蛤刃石斧 (古)竪穴住居8 土師器、埴輪 (平)竪穴式住居4 土師器、須恵器、緑釉陶器 (近)暗渠1 (昭和62年調査)	※9	松代小学校 長野市教委
	表組遺跡	" "	"	(弥)箱清水式		
	中川遺跡	" "	扇状地	(縄)石鏃 (弥)箱清水式 (弥)箱清水式 (古)土師器 (平)須恵器		
1	山ノ腰遺跡	" 東条	山麓	(縄)中期土器、石皿、横刃形石器 (弥)竪穴住居11、甕棺墓2、集石遺構 吉田式、箱清水式、打石斧 (古)竪穴住居11 土師器、丸玉、石製模造品 (平)竪穴住居8、井戸2、土壇8 土師器、須恵器、灰釉陶器、硯、紡錘車、刀子、鎌、鉄斧、火打ち金具、砥石、羽口 (中)青磁、珠洲焼 (昭51年発掘)	※2	日本窯業史 研究所
1	屋地遺跡	" " 屋地	扇状地	(平)半地下式窯、須恵器		
9	滝本窯跡	" " "	山腹	(平)須恵器		豊栄小学校
	天王山窯跡	" " 天王山	山麓	(平)須恵器		東条小学校
	池の平窯跡	" " 滝本	山腹	(平)須恵器		豊栄小学校

菅神山周辺の遺跡地名表(2)

番号	遺跡名	所在地	立地	遺構・遺物	文献	備考 (所産名)		
20	松代城北遺跡	松代・松代	自然堤防	(古)土師器	※3	長野市教委 清野小学校		
	象山口遺跡	〃 清野	〃	(平)土師器、須恵器				
	四ツ屋遺跡	〃 〃	〃	(縄)晩期土器 (弥)竪穴住居11、溝3 箱清水式、卜骨、銅鋼、紡錘車 (古)円形周溝 円筒埴輪、形象埴輪、土師器、須恵器 (奈)土師器、須恵器 (平)竪穴住居21、小竪穴3、掘立柱建物1 土塊、溝 土師器、須恵器、灰釉陶器、布目瓦、刀子 (中)土墳墓3 五輪塔、人骨2 (昭52・54年発掘)				
7	道島廃寺跡	〃 〃 道島	山 麓	(平)布目瓦、須恵器	〃	〃		
	舞鶴山1号古墳	〃・西条・六工	山 頂	(古)円(径33.0、高5.5)、竪(長5.2、巾0.7、高0.4、割石小口横)、 珠文鏡1、(伝)滑石製刀子 (昭51発掘)				
8	舞鶴山2号古墳	〃・〃・〃	〃	(古)前方後円(長36.5、後円部径20.0、同高5.0、前方部巾20.0、同高4.0)、竪(長5.0、巾0.7、高0.8) (昭51年発掘)	〃	〃		
	長礼山1号古墳	〃 東条・長礼山	山 麓	(古)円(径20.0、高3.0)、竪				
9	長礼山2号古墳	〃 〃 〃	〃	(古)横円(径25.0、高4.5)、組合式石棺(長1.97巾0.57) 鉄環、鉄鏃、家形埴輪、円筒埴輪 (昭49年発掘)	※5	長野市教委		
	天王山1号古墳	〃 〃 天王山	山 頂	(古)円(径18.0)、横(巾1.6)				
10	天王山2号古墳	〃 〃 〃	〃	(古)円(径16.0)	〃	〃		
	竹原笹塚古墳	〃 〃 竹原	山 麓	(古)横円(径26.0、高3.6)、合掌(長6.9、巾1.4、高1.8) (伝)直刀、鉾具、髀、雲珠				
12	菅間1号古墳	〃 〃 菅間	山 麓	(古)横円、竪(長2.14、巾0.63、高0.58) 直刀、鉄鏃、刀子、切子玉、土師器、人骨	〃	〃		
	菅間2号古墳	〃 〃 〃	〃	(古)横円(径17.5、高4.0)				
	菅間3号古墳	〃 〃 〃	〃	(古)横円(径24.0、6.2)				
	菅間4号古墳	〃 〃 〃	〃	(古)横円(径19.0、4.3)円筒埴輪				
11	菅間王塚古墳	〃 〃 〃	〃	(古)横円(径34.0、6.7)竪、合掌 円筒埴輪 直刀、馬具、須恵器	〃	〃		
	下岩沢古墳	〃 〃 下岩沢	〃	(古)横円(径25.0、高6.8)				
	熊の沢古墳	〃 〃 熊の沢	〃	(古)横円(径5.0、高1.0)、組合式石棺				
	瀬岡古墳	〃 〃 瀬岡	〃	(古)円(径4.5、高3.0)				
	寄塚古墳	〃 〃 〃	〃	(古)円				
	桐塚古墳	〃 〃 〃	〃	(古)円(径20.0、高2.0)				
	牧内1号古墳	〃 〃 〃	扇状地	(古)横円(径12.9、高3.45)、横(長6.6、巾1.75、高2.2) 鉄鏃、勾玉、金環、雲珠				
	牧内2号古墳	〃 〃 〃	〃	(古)円(径14.3、高4.2)				
	桑根井空塚古墳	〃 〃 桑根井	〃	(古)横円(径17.0、高3.4)、合掌(長6.1、巾1.8、高2.0) 勾玉、菅玉、須恵器			〃	〃
	桑根井久保古墳	〃 〃 〃	〃	(古)円(径16.0、高2.6)				
前山古墳	〃 〃 〃	〃	(古)円(径14.25、高4.3)					
鐘塚1号古墳	〃 〃 〃	〃	(古)円(径14.9、高1.7) 勾玉、菅玉					
14	鐘塚2号古墳	〃 〃 〃	〃	(古)円(径9.4、高2.1)	〃	〃		
	鐘塚3号古墳	〃 〃 〃	〃	(古)円(径6.8、高1.8)				

皆神山周辺の遺跡地名表(3)

番号	遺跡名	所在地	立地	遺構・遺物	文献	備考 (所蔵者)
16	鏡塚4号古墳	松代	鏡塚	＃	(古)円(径11.35、高3.1)	
	鏡塚5号古墳	＃	＃	＃	(古)円(径12.9、高2.3)	
	鏡塚6号古墳	＃	＃	＃	(古)円(径11.8、高2.5)	
	鏡塚7号古墳	＃	＃	＃	(古)円(径14.0、高1.4)	
	村北1号古墳	＃	平林・村北	＃	(古)円(径17.2、高1.1)	
	村北2号古墳	＃	＃	＃	(古)円(径7.8、高1.35)	
	村北3号古墳	＃	＃	＃	(古)円、壘	
					勾玉、管玉、小玉、乳文鏡	
	村北4号古墳	＃	＃	＃	(古)円(径13.0、高1.65)	
	村北5号古墳	＃	＃	＃	(古)円(径8.5、高2.5)	
	観音様古墳	＃	＃	＃	(古)円(径18.0)、横	
					鉄鍬、鈔、甲冑、髀、勾玉、切子玉、丸玉、 ガラス製小玉金環、銀環、辻金具、雲珠、 六鈴鍬	
	村東1号古墳	＃	村東	＃	(円)円(径13.5、高1.8)	
	村東2号古墳	＃	＃	＃	(円)円(径10.2、高1.1)	
村西1号古墳	＃	村西	＃	(円)円(径13.7、高2.1)、壘(径2.4、巾1.14、高0.8)		
村西2号古墳	松代・平林・村西	扇状地	＃	(古)円(径11.0、高1.4)		
川西1号古墳	＃	関屋・川西	＃	(古)円(径12.7、高2.4)		
川西2号古墳	＃	＃	＃	(古)円(径11.5、高2.0)		
				直刀		
川西3号古墳	＃	＃	＃	(古)円(径13.0、高3.1)		
川西4号古墳	＃	＃	＃	(古)円(径20.0、高4.4)		
川西5号古墳	＃	＃	＃	(古)円(径9.0、高2.6)		
川西6号古墳	＃	＃	＃	(古)円(径16.3、高1.8)		
川西7号古墳	＃	＃	＃	(古)円(径16.4、高2.5)		
川西8号古墳	＃	＃	＃	(古)円(径12.8、高1.8)		
川西9号古墳	＃	＃	＃	(古)円(径10.8、高1.7)		
17	虫歌1号古墳	＃	虫歌	＃	(古)円(径6.8、高2.0)	
	虫歌2号古墳	＃	＃	＃	(古)円(径16.7、高2.7)	
	虫歌3号古墳	＃	＃	＃	(古)円(径12.0、2.4)	
	虫歌4号古墳	＃	＃	＃	(古)円(径7.8、高2.0)	
	宮崎1号古墳	＃	宮崎	＃	(古)円(径20.2、高1.5)	
	宮崎2号古墳	＃	＃	＃	(古)円(径15.3、高2.0)、 須恵器	
	宮崎3号古墳	＃	＃	＃	(古)円(径14.4、高1.6)	
	宮崎4号古墳	＃	＃	＃	(古)円(径13.5、高1.4)	
	宮崎5号古墳	＃	＃	＃	(古)円(径7.2、高1.2)	
	宮崎6号古墳	＃	＃	＃	(古)円(径8.0、高1.3)	
	宮崎7号古墳	＃	＃	＃	(古)円(径23.5、高2.4)	
	宮崎8号古墳	＃	＃	＃	(古)円(径7.0、高1.2)	
					土師器、須恵器	
	宮崎9号古墳	＃	＃	＃	(古)円(径18.4、高1.7)	
	宮崎10号古墳	＃	＃	＃	(古)円(径13.0、高2.3)	
					土師器、須恵器	
	宮崎11号古墳	＃	＃	＃	(古)円(径26.0、高1.25)	
宮崎12号古墳	＃	＃	＃	(古)円(径17.0、高1.8)		
宮崎13号古墳	＃	＃	＃	(古)円(径20.0、高1.2)		
宮崎14号古墳	＃	＃	＃	(古)円(径14.0、高3.0)		
宮崎15号古墳	＃	＃	＃	(古)円(径10.0、高1.8)		
宮崎16号古墳	＃	＃	＃	(古)円(径11.8、高1.4)		
南大平1号古墳	＃	南大平	＃	(古)円		
南大平2号古墳	＃	＃	＃	(古)円(径7.0、高2.0)		
南大平3号古墳	＃	＃	山麓	(古)横円(径18.0、高6.2)、横(長7.7、巾2.02、高 5.0)、円筒埴輪		

皆神山周辺の遺跡地名表(4)

番号	遺跡名	所在地	立地	遺構・遺物	文献	備考 (所蔵者)
18	上ノ山1号古墳	松代 上ノ山	#	(古)円(径4.0、高1.2) 土師器、須恵器		
	上ノ山2号古墳	" "	" "	(古)円(径6.0、高1.5)		
	小丸山古墳	" 柳山	山頂	(古)円(径30.0、高4.6)、葦石、周産、埴		
	石堂古墳	" 石堂	扇状地	(古)円(径27.0、高2.0)		
	霧下り古墳	" 霧下り	山頂	(古)円(径20.0、高9.0)		
	平沢古墳	" 豊栄・平沢	山頂	(古)円(径3.5、高1.1) 土師器、須恵器		
	丸塚1号古墳	" 西条・北組	" "	(古)円(径30.0、高3.1)		
	丸塚2号古墳	" "	" "	(古)円(径20.8、高1.75)		
	丸塚3号古墳	" "	" "	(古)円(径36.8、高2.9)		
	丸塚4号古墳	" 欠組	" "	(古)円(径14.6、高4.2)		
	丸塚5号古墳	" "	" "	(古)円(径15.0、高2.0)		
	丸塚6号古墳	" "	山腹	(古)円(径24.0、高2.5)		
	(1) 母山(母山)古墳	" 母山	山頂	(古)円		
屋地1号古墳	" 東条・皆神山腹	山麓	(古)積円(径15.0、高3.0)			
屋地2号古墳	" "	山腹	(古)積円(径20.0、高2.0) 埴輪			
屋地3号古墳	" "	" "	(古)積円(径10.0、高2.0)			
4 松原遺跡	" 東寺尾・松原		(弥)中期土器、箱清水式、太形蛤刃石斧・石包丁 (弥)土師器 (平)須恵器			

【長野県史考古資料編遺跡地名表】より(一部改変・追加)

【主要遺跡文献】

- ※1 笹沢浩「北信松代町中村神社出土土器」(『長野県考古学会連絡紙』12)昭39
長野市教委「中村遺跡—松代西条小学校地点遺跡の調査報告」昭53
- ※2 日本歴史研究所「屋地遺跡」昭51
- ※3 高野行栄「四ツ屋遺跡について」(『埴科教育』5)昭32
笹沢浩「長野市清野四ツ屋遺跡出土の後期弥生式土器」(『信濃考古』30)昭50
岩崎卓也「長野県四ツ屋遺跡出土の土器」(『土師式土器集成本編』2)昭47
高野行栄「長野県四ツ屋古墳出土の土器」(『』)))
竹内三千代「長野市松代町清野四ツ屋遺跡の古式土師器」(『信濃』Ⅲ・26—2)昭49
小林秀夫「長野市四ツ屋特殊遺構の遺物」(『信濃考古』36)昭51
佐藤慶二「長野市四ツ屋遺跡出土の須恵器」(『長野県考古学会誌』29)昭52
長野市教委「四ツ屋遺跡・徳間遺跡・塩崎遺跡群」昭55
- ※4 岩崎卓也「舞鶴山1・2号古墳」(『長野県史』考古資料編全1巻(2))昭57
- ※5 長野市教委「湯谷古墳群・長礼山古墳群・駒沢新町遺跡」昭56
- ※6 矢沢頼道「屋根型天井の石櫓を有するケールン」(『県史蹟報告』2)大13
米山一政「竹原笹塚古墳」(『長野市の文化財』)昭46
小林秀夫「竹原笹塚古墳・菅間王塚古墳・桑根井空塚古墳」(『長野県史』考古資料編全1巻(2))昭57
小林秀夫「合掌形石室の諸問題」(『中部高地の考古学』)昭53
- ※7 岩崎長思「王塚古墳」(『県史蹟報告』16)昭10
・ 埴科郡北地職員会「松代町菅間古墳調査報告書」昭29
米山一政「菅間王塚古墳」(『長野県指定文化財調査報告』4)昭48
- ※8 米山一政「桑根井空塚」(『長野県指定文化財調査報告』4)昭48
- ※9 長野市教委「中条遺跡」平成元

Ⅲ 調 査

1 遺構と遺物の分布

(1) 昭和51年の発掘調査

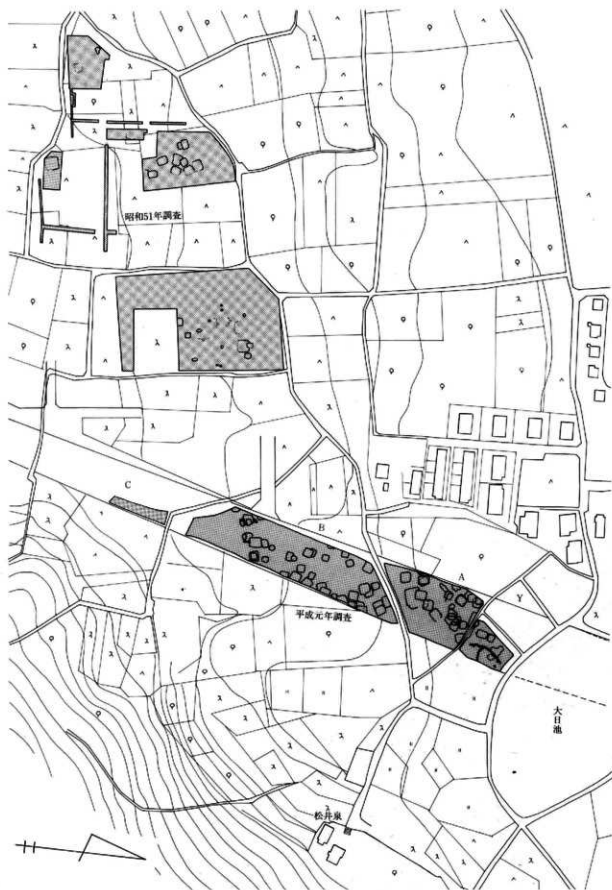
昭和51年3月24日から6月27日にかけて、長野県企業局による皆神台団地造成に伴う発掘が、日本商業史研究所によって実施された。その調査報告書によると「予定造成地内には広範囲にわたり遺物の散布が見られるが、特に北側は散布の密度が高く事前に調査することになった。」とされ、Ⅲ-2図に示した粗いアミかけの部分にそれにあたる。この調査区から弥生時代後期吉田式期の住居址4軒・變棺墓2棺、同期箱清水式期では住居址7軒・土器焼場(カマ)・集石遺構が検出されている。遺物では、箱清水式期の住居址床面から出土したという鉄片(トウス片)、報告書では時代比定していないが、該期の所産と考えられる白銅の銅片が出土している点注目される。古墳時代中期和泉式期のものは住居址1軒、後期鬼高式期は住居址10軒を検出している。平安時代では住居址6軒、井戸址2口、土壇8口等を調査している。古墳時代以降の住居址のうち5軒から石積壁を有するものが発見され、カマのほとんどは東壁に構築された石芯粘土製のものである。遺物には古墳時代6世紀前半の須恵器特殊器台が遺構外より採集されており、当地では初めての知見である。さて遺構の分布を「遺構配置図」から読み取ると、弥生時代の集落の中心は、調査中央及び西に展開する。ただ變棺墓は東に100m程離れた所より発見されている。古墳時代のもの調査区全面に散在するが、平安時代では東側に集中するようである。

〔文献〕

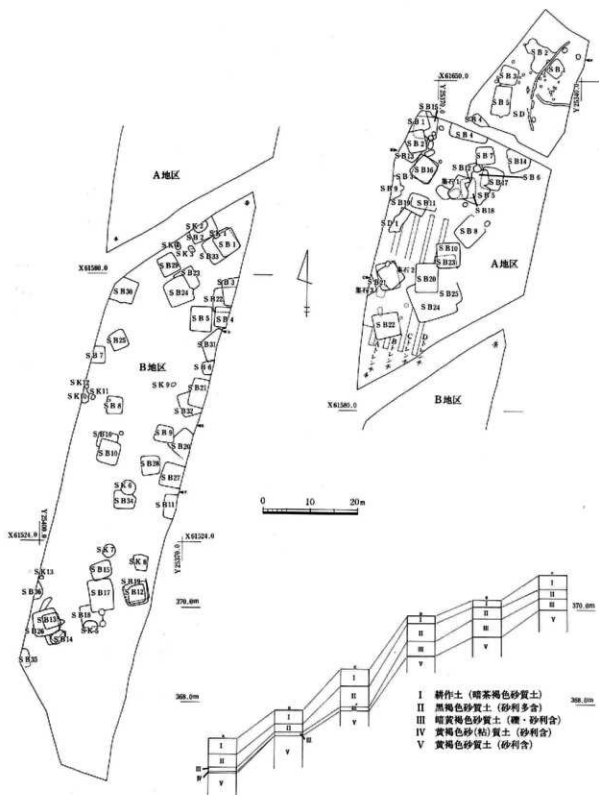
大川清編 日本商業史研究所報告第4冊『長野県松代屋地遺跡』長野県企業局・日本商業史研究所 昭和52年



Ⅲ-1 大日池下の調査地(X地区)



III-2 調査地及び遺構分布図



III-3 遺構分布図及び土層図

(2) 平成元年度の調査

本報告書記載の発掘調査で、調査範囲をⅢ-2図の濃いアミかけで示した。農道を境に大日池下(北側)の調査区をX地区とし、南側をY・A・B・C地区とした。X地区では表土下約37cmで大きな礫を含む茶褐色砂質土層で、55cmで明黄褐色礫層となり、遺物包含層、遺構の痕跡は確認できなかった。ただ表土層の暗黄褐色砂質土層より数点の土器片が出土しているため、調査対象地の西側微高地には遺跡が存在するものと思われる。Y地区の西半分程は採土により破壊を受ける。遺構検出面は黄褐色砂質土である。古墳時代から平安時代の遺構を検出したが、不規則なものが多い。検出面下層は礫層になる。A地区の遺構・遺物の特色は弥生時代のものが多く認められる点である。即ち平安時代住居址床面下からの検出例が多く、A8号住居址では、平安時代遺構検出面からの確認であるが、深さは約20cm程の掘り込み面での差が認められた。B地区は皆神山麓から開放された北に傾斜する微高地の東端付近に位置し、古墳時代から平安時代の遺構・遺物が散在する。しかし南端付近やC地区では全く認められなくなる。この地点は皆神山西麓の傾斜面にあたるためと思われる。C地点の西側及び南方は既採土のため調査が不可能であったが、この傾向を考えるとこの地域には遺跡が存在しないものと思料される。

調査はA・B地区とも平安時代面の調査後A地区では約20cm程、B地区では約30cm程を更に全面掘削する二面での遺構検出作業を行なった。両地区とも新たに古墳時代を中心とした遺構を検出したものの、弥生時代の遺構が存在しないことが明らかになった。昭和51年の調査所見と考え合せると弥生時代の集落は小規模なもので小さな核をもって散在していたものと思われる。

次に基本的土層序について触れておきたい。Y地区は表土層(耕作土層)が茶褐色砂質土層になり、II層が砂利を多く含む黒褐色砂質土層でIII層(検出面)が黄褐色砂質土層になるA・B区ではIII層の黒褐色砂質土層を上面の遺構検出面になり、下面は暗黄褐色砂質土層を基本層序としているが、数度にわたる大小の洪水があったものと思われ、所によって相違がみられる。砂利の多い所・砂層になる所・礫が多い所があり、また色調の差も同一平面でみられるなど複雑な様相を呈する。



Ⅲ-4 B地区上面の遺構検出状況

2 縄文時代の遺構と遺物

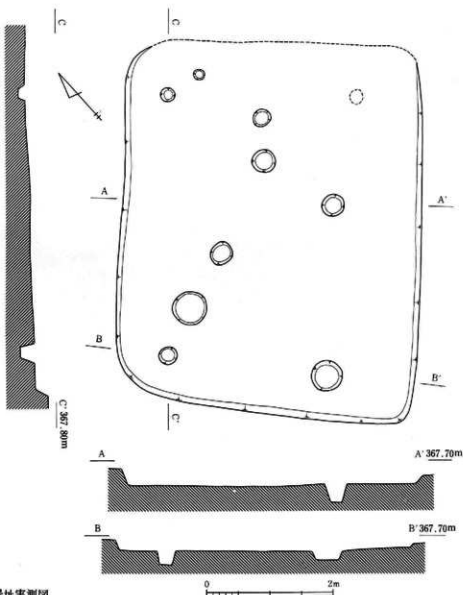
B調査区上面の遺構検出中に縄文時代中期の土器片が2点採集されている。これらはいずれも磨耗が著しく、洪水によってこの地までもたらされた可能性が強い。ちなみに上流に宮崎遺跡が周知されている。石器には、B26号住居址出土の蛇紋岩製磨製石斧(Ⅲ-230-2)とB地区下面出土の打製石斧(Ⅲ-230-1)が該期のもと考えられるが、前者は敲打器あるいは砥石に転用されている。遺構は存在しない。

3 弥生時代の遺構と遺物

該期の遺構と遺物は、Y・A地区に多く、B地区にはほとんど認められないことからこの地域周辺に小規模な集落が営まれていたものと推定する。遺構としては、住居址3軒を確認したにすぎない。また遺物量も少ない。

(1) A8号住居址

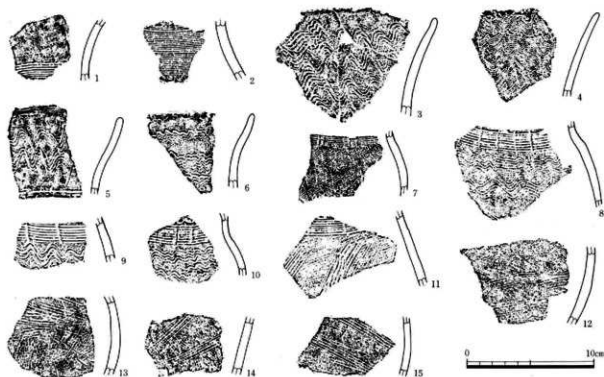
遺構 A地区中央東より位置する。上面に古墳時代及び平安時代の遺構のあった可能性が高く須恵器蓋環・土師器瓶・坏が多く出土している。形態は不整丸長方形を呈し、主軸(長軸)5.7m・短軸4.8mを測る。主軸方向はN-42°-Eである。検出面からの掘り込は南壁で最も深く19cmでやや傾斜を有している。検出時の床面は礫が露出し良い状態とはいえないが、部分的に黄褐色の砂質土で貼り床した部分が認められ北に傾斜する。柱穴は不規則であるが、4個方形配列と推定され、深さ20cm前後のものである。炉は確認できなかった。Ⅲ-6の写真に見られる東壁沿いの集石は、



Ⅲ-5 A8号住居址実測図



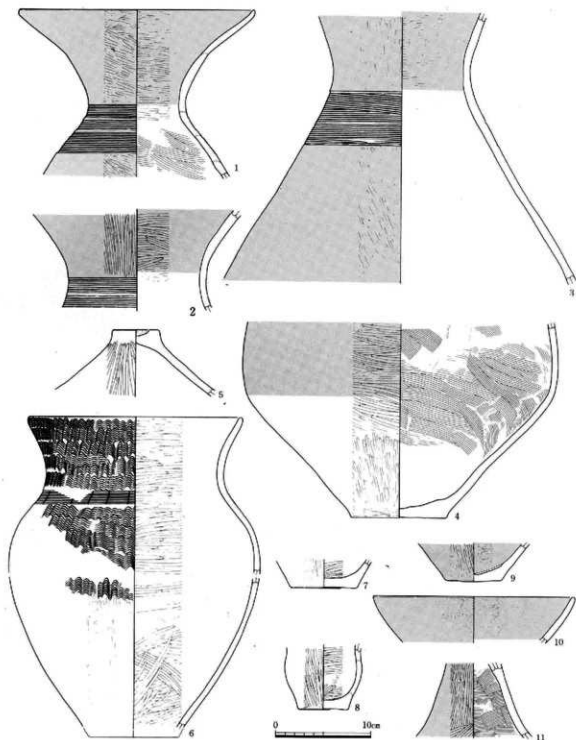
III-6 A8号住居址



III-7 A8号住居址出土土器拓影

平安時代の所産と思われる。

遺物 住居址中央より南側で多く出土したが、その量は多くない。器種には壺(III-7-1・2、III-8-1~4)・蓋(III-8-5)・甕(III-7-3~15、III-8-6~8)・浅鉢(III-8-9・10)・高坏(III-8-11)がある。壺の

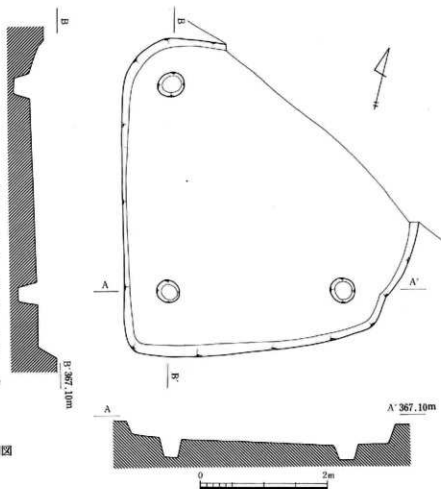


III-8 A 8号住居址住居址出土土器実測図

外面は頸部の文様帯を除き体部下半まで、内面では頸部以上を赤色塗彩が施される。内外面の調整は、他器種と同様にヘラミガキを基調とするが、壺の体部内面はハケナデあるいはナデにより仕上げられる。この調整後、頸部外面に櫛状工具により横線文（櫛描横線文）が施され、III-8-3では下から上への施文である。甕は大小あり、基本的施文として頸部に1帯の櫛描簾状文をめぐらし、下方は体部中位まで、上方は口縁部まで櫛描波状文で飾る。III-8-8の小形甕には文様のみみられない。III-7-11は頸部文様帯の下から、同12-15では体部中位付近から下方にかけ櫛描斜行線文が施される。この他に土製円板（III-231-9）が出土している。

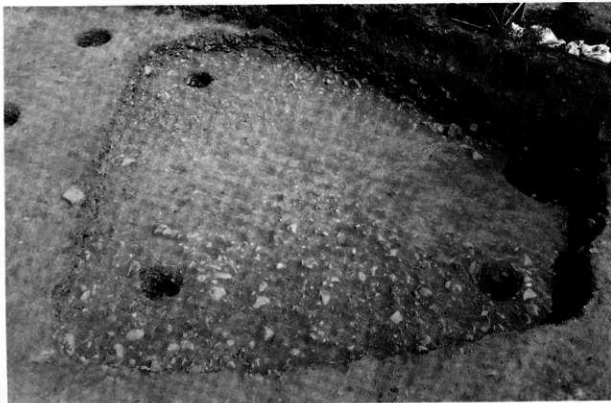
(2) A14号住居址

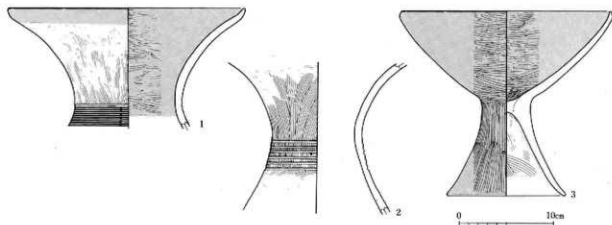
遺構 A地区とY地区の境に位置する。形態は不整隅丸方形を呈する。東壁は丸味を帯びて張り出し、この住居址も後出の遺構と重複している可能性もあるが、柱穴等の確認がなかったことから一応該期のものとする。掘り込みは東壁で深く36cmを測り、南壁では18cmで、床面は東側へ傾斜する。床面はやや礫が露出するものの平坦である。柱穴は3個確認され4個方形配列になるものと思われる。直径30cm程で、深さ23~31cmである。炉その他の施設は確認できなかった。



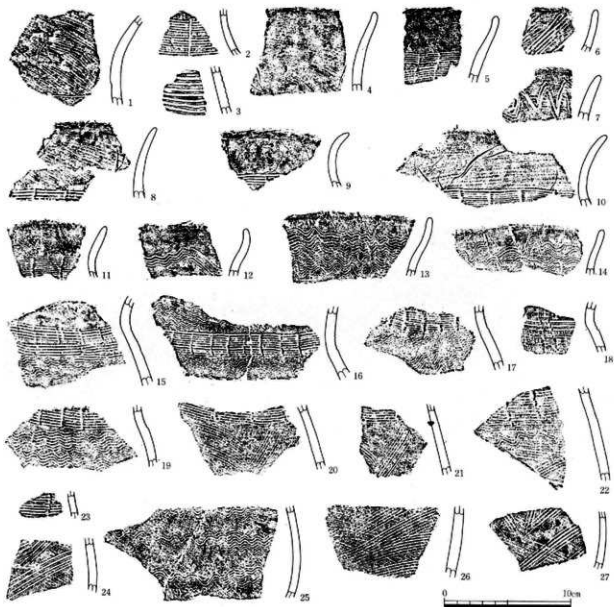
III-9 A14号住居址実測図

III-10 A14号住居址





III-11 A14号住居址出土土器实测图

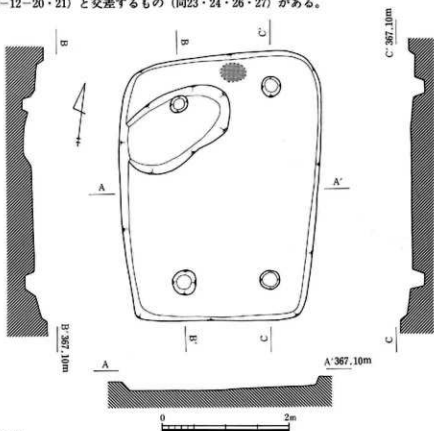


III-12 A14号住居址出土土器拓影

遺物 完形のものはないが、出土量が多い。器種には、壺(Ⅲ-11-1・2、Ⅲ-12-1~3)・高坏(Ⅲ-11-3)、甕(Ⅲ-12-3・27)・浅鉢がある。調整・文様構成は、A8号住居址と同様であるが、壺頸部文様にヘラ描平行線文(Ⅲ-11-2、Ⅲ-12-3)・T字状文(Ⅲ-11-1、Ⅲ-12-2)が加わる。甕体部下半に施文される柵描斜行線文には羽状になるもの(Ⅲ-12-20・21)と交差するもの(同23・24・26・27)がある。

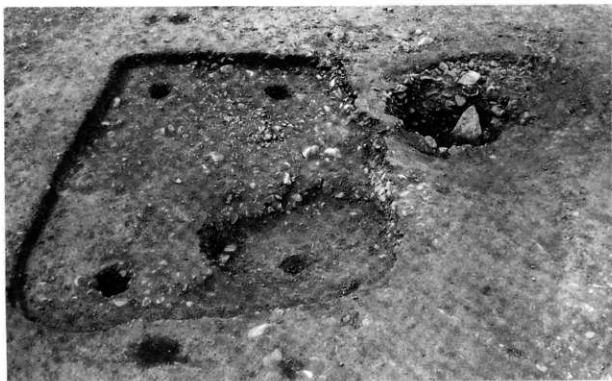
(3) A18号住居址

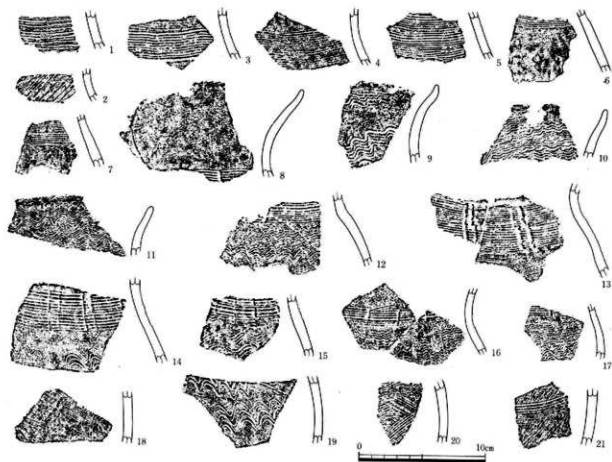
調査区中央付近にあり、長軸4.24m・短軸3.14mの隅丸長方形を呈する。長軸方向はほぼ南北軸線にある。柱穴は径26~35cm・深さ20cm程の4個方形配列になる。床面は礎頭が露出するものほぼ平坦で、北側の一部に黄褐色砂質土の張り床が認められた。北壁よりに焼土が認められたが通常設置される場所と異なり、また掘り込みも認められな



Ⅲ-13 A18号住居址実測図

Ⅲ-14 A18号住居址・A7号土壌





III-15 A18号住居址出土土器拓影

ったので戸とは断定しにくい。また北側の西壁にかけ、長軸1.70m・短軸1.05m・深さ10cm程の土壇状の落ち込みが確認されたが、該期のものでなく後出のものである。この土壇状遺構からの出土遺物はない。

遺物 すべて破片出土で、その量は多くない。器種には、壺 (III-15-1~7)・甕 (同8~21)・高坏・浅鉢等がある。整形・文様構成は、前記のA14号住居址と同様であるが、III-15-2には、ヘラ描斜行線文が見られる。また壺の13・18の櫛描斜行線文はハケナデ調整痕である。

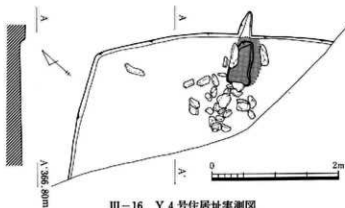
4 古墳時代の遺構と遺物

古墳時代の遺構・遺物は、Y・A・B調査区内に存在し、時代別では平安時代に次ぎ多くの検出番号が付されている。ただB地区に於る分布状態は、中央部以下に存在し、山麓つけ根部分までは延びていないようである。また検出面は、Y地区では黄褐色砂質土であり、平安時代のもとの同一面であり、A地区に於ては、下方でY地区と同様であるものの上半部では下層面になる。B地区に至っては、そのほとんどが下層面の砂利混り暗黄褐色砂質土層を基盤とする。一時A・B地区の農道を境に断層があり、この様なあり方を示しているのかとも考えたが、土層のレベルを検討した所、古墳時代以降平安時代に至る間に大洪水があり、山麓から開放された当地に著しい堆積土・砂利を残した結果ということで理解することができた。ちなみに該期に比定する遺構数は、住居址23軒、土壇5基、溝址1ヶ所である。以下検出遺構を下方地区から番号順に記載する。

(1) Y 4号住居址

遺構 Y・A地区との接点にあり、北側半分程を検出したが、A地区まで及ばない規模である。形態はやや扇張りの方形を呈するものと思われる。規模は東西軸から推定すると一辺4.3m程になる。カマドは北壁に設置され、長さ40cm・幅10cm程の角礫が埋め込まれており、これを芯にしたものと思われる。遺物はこのカマド内・周辺からの出土である。カマド前面に礫の集石が認められたが用途不明である。柱穴は確認できなかった。

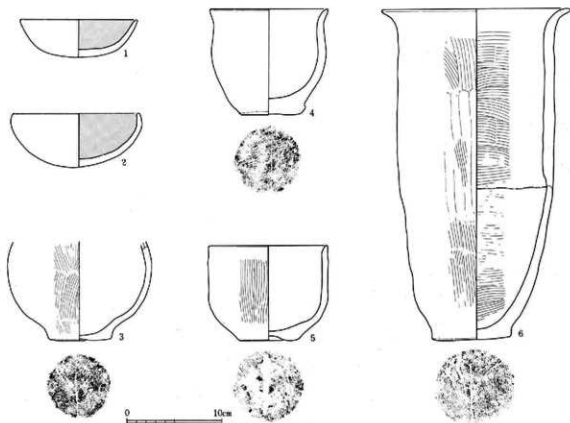
遺物 出土量は多くない。器種には坏(Ⅲ-18-1・2)・鉢(3~5)・甕(6)・高坏がある。鉢及び甕の底部には木葉痕が残されているが、3~5にみられるように上底内部まで付着しており、単なる回転用に用いられたものとは思えない。



Ⅲ-16 Y 4号住居址実測図



Ⅲ-17 Y 4号住居址

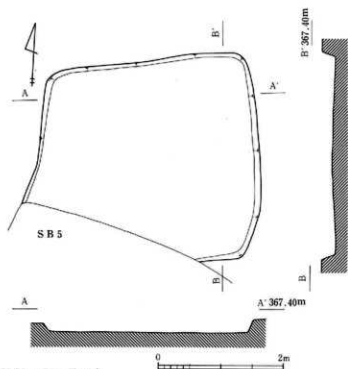


Ⅲ-18 Y 4号住居址出土土器実測図

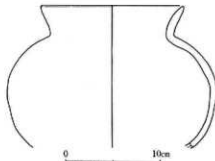
(2) A 6号住居址

遺構 調査地の中央付近に位置し、A 5号・A 12号住居址、A 1号集石、A 7号土壘と重複関係にあり、上面からの形態把握は、特にA 5号住居址との関係において困難を極めた。そこでA 5号住居址推定域の調査を先行し、本住居址との新旧関係を見極めることとした。結果的にはこの調査方法が有効で、A 5号住居址は後出の平安時代の所産であることが判明した。A 12号住居址より古い。検出した遺構は、柱穴・カマド等が確認できず住居址と呼称するにはちゅうちょするところであるが掘り込みが住居址形態であるので調査時の遺構名をそのまま使用した。形態は西壁が中央付近より外反する不整隅丸方形を呈する。方形形態よりの計測値は、南北軸3.2m・東西軸3.13mである。南北軸方向はN-6°-Eである。掘り込みは北壁で深く21cmを測り、床面は平坦である。

遺物 すべて覆土からの出土で、出土量は多くなく、図示できるものはIII-20の壺形土器1点だけである。破片に内面黒色の坏・甕・高坏等がある。この他鹿角截断加工品(III-229-9)が出土している。



III-19 A 6号住居址実測図



III-20 A 6号住居址出土土器実測図

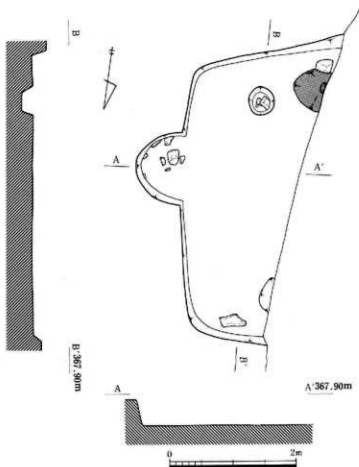
III-21 A 6号・A 5号住居址



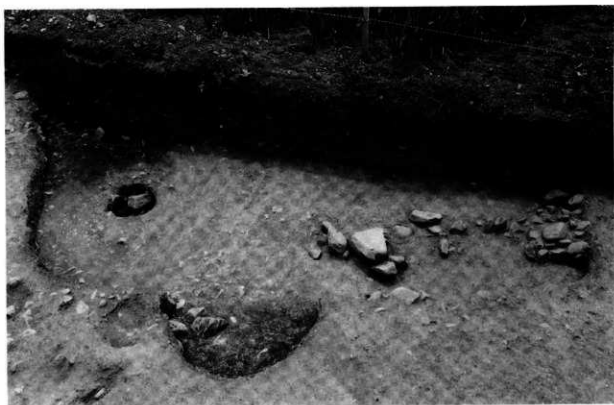
(3) A9号住居址

遺構 調査区中央付近に位置するが、住居址の西半分以上は調査対象外へ延びる。形態はやや胴張りの隅丸方形を呈するものと思われる。主軸の規模は5m内外と推定する。柱穴は径45cm・深さ18cm程のものが東壁に添って2個確認され、4個方形配列になるであろう。カマドは南壁中央に構築され、焼土及び支脚立石が残存する。掘り込みは南壁で深く29cmを測り、床面は平坦で一部に黄褐色砂質土の貼り床が認められ、中央及び北壁に用途不明の集石がある。東壁に時期不明であるか本住居址より新しい径115cm程の円形土坑がある。

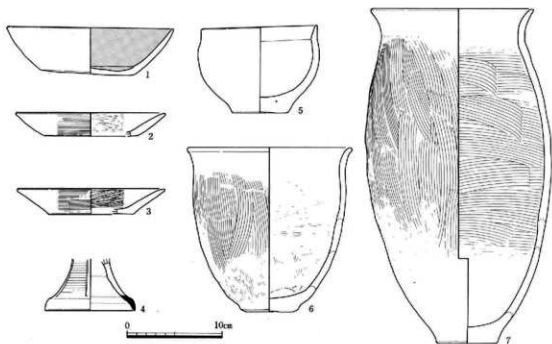
遺物 形態を復元できるものはすべてカマド周辺の出土である。Ⅲ-24の土器類は、上面の調査で検出したもので、Ⅲ-25のものは下面遺構検出中、本住居址カマド内焼土及び調査区西壁下より掘り出したもので、



Ⅲ-22 A9号住居址、土坑実測図

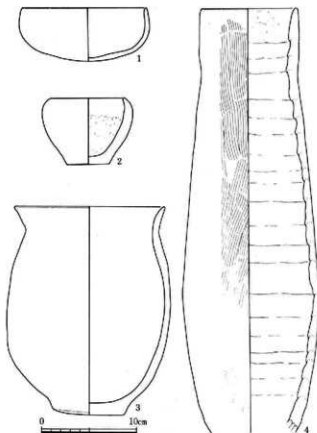


Ⅲ-23 A9号住居址、土坑



III-24 A9号住居址出土土器実測図

他の遺構が存在しなかったため、本住居址のものとして扱う。器種には、平底皿形の環(III-24-1~3)・丸底碗形の環(III-25-1)・深鉢形の環(同2、III-24-5)・深鉢形の甕(III-24-6)・小形甕(III-25-3)・長胴の甕(同4・III-24-7)・須恵器高坏脚部(III-24-4)があり、破片としては土師器高坏が出土している。III-24-2・3は内外面ともいねいにミガキが施され該期の土器にはあまり見られない器形である。4の須恵器高坏脚部は、長方形4孔の透しが穿たれ陶邑編年でTK23に比定されるものと考えられる。III-25-4は、口縁部が直立し、わずかな凹で頸部をつくり、体部下半に最大径を有する円筒形の土器である。底部は欠損して不明であるが、平底になるものと思われる。内面には成形時の粘土紐痕が未調整のまま残されている。この種の土器は、坂城町北浦遺跡、長野市田中沖遺跡で発見されており、共にカマドあるいはその周辺からの出土である。北浦遺跡で



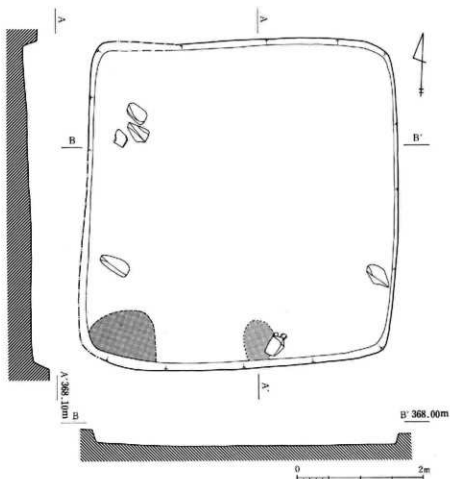
III-25 A9号住居址カマド内出土土器

はカマドの支脚ではないかと推定し、田中沖遺跡では再火熱を受けた様子がなく、支脚としては長すぎるため籠取り用のウケではないかと私見している。いずれにしても千曲川中流域に分布する特異な土器である。

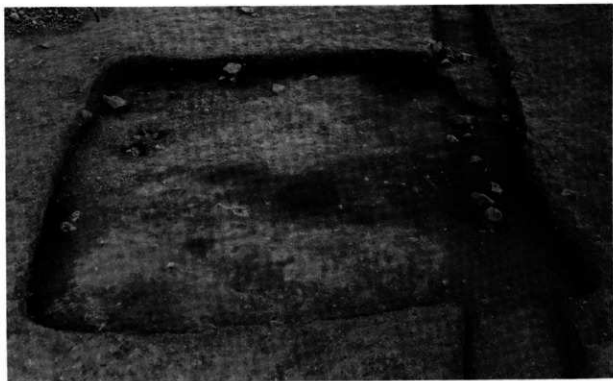
(4) A10号住居址

遺構 調査区上方で検出した住居址で、上面の調査で遺構存在確認のため西側の一部を破壊してしまった。形態は隅丸方形を呈し、主軸5.22m・短軸4.91mの規模である。掘り込みは南壁で深く28cmを測り、床面は北に傾斜するが平坦である。カマドは南壁中央付近に構築されるが検出時では焼土と構築材の礫を残すのみであった。また南西隅にも焼土が認められた。柱穴は確認できなかった。尚覆土上面から平安時代を中心とする土器類とともに羽口片・鉄滓・炭片等が出土しており、この時期の遺構があった可能性もある。

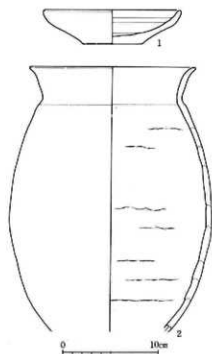
遺物 古墳時代の遺物のほ



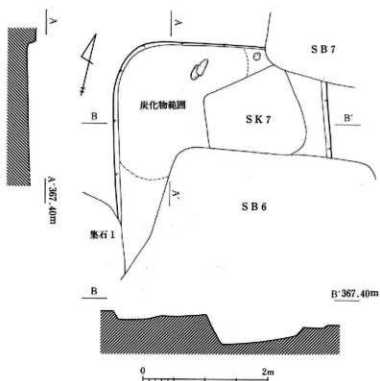
III-26 A10号住居址実測図



III-27 A10号住居址

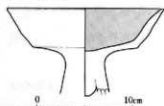


III-28 A10号住居址出土土器実測図



III-29 A12号住居址実測図

とんどはカマド周辺からの出土である。器種には、III-28-2の變そして内面黒色処理された坏・高坏、須恵器蓋坏片等がある。覆土中ではあるが埴輪片1点もある。1は上面覆土からのもので、他に灰釉陶器片、須恵器坏・壺・甕片、土師器甕・坏片の土器類があり、ともに平安時代に比定される。またこの面から獣骨・刀子(III-232-21)が出土しておりやはり平安時代の所産と思われる。



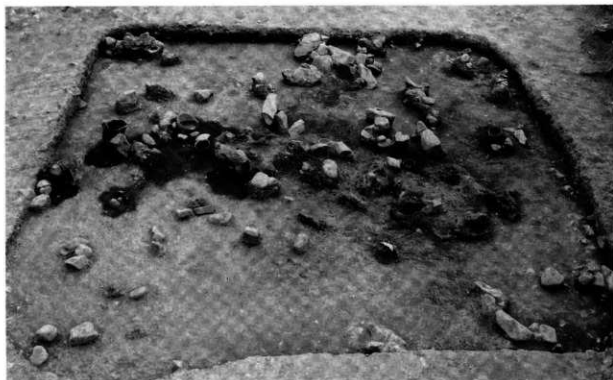
III-30 A12号住居址出土土器実測図



III-31 A12号・A6号住居址、A7号土坑

(5) A12号住居址

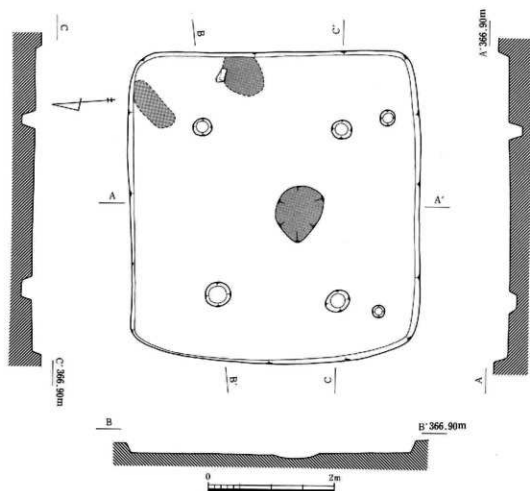
遺構 A6号・A7号住居址、A7号土牆に切れ、北側半分程の検出にすぎない。形態は隅丸方形を呈するものと思われ、東西軸の規模は3.44mを測る。検出面からの掘り込みは浅く12cmで、床面は北に傾斜するが平担である。Ⅲ-29図中鎖線内に厚さ1cm程の炭化物が堆積していた。柱穴はない。



Ⅲ-32 A15号住居址 (南より)



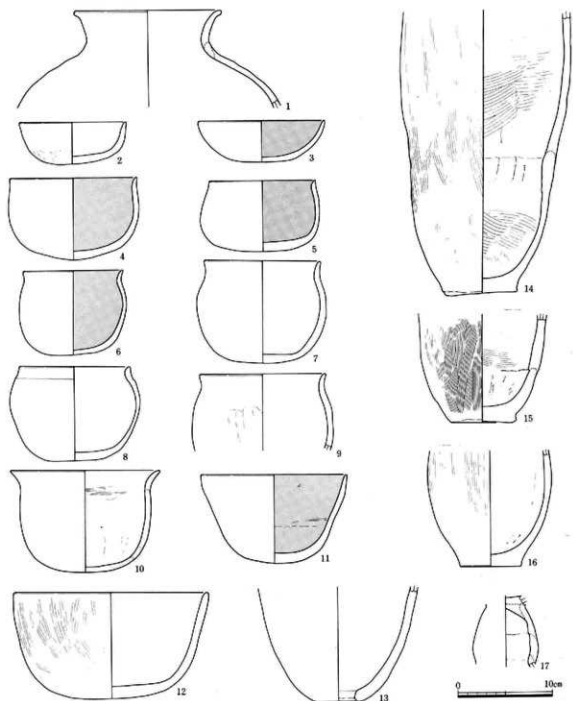
Ⅲ-33 A15号住居址 (東より)



III-34 A15号住居址実測図



III-35 A15号住居址 (北より)



III-36 A15号住居址出土土器実測図

遺物 出土量は少なく、器種には、高坏 (III-30)・坏・甕がある。

(6) A15号住居址

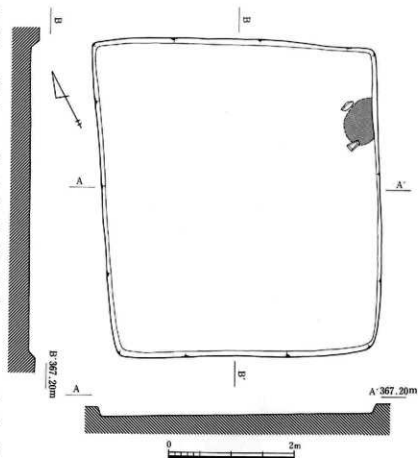
遺構 A地区下層、A1号・A2号住居址下面から検出である。形態は隅丸方形を呈する。規模は主軸（東西）4.95m・短軸4.61m測り、主軸方向はN-92°-Eを測る。掘り込みは南壁が最も深く19cm程の浅い住居址で、床面は中央付近でやや凹み、西に傾斜する。カマドは東壁中央北寄りに構築される石芯両袖形のものと推定される。このほかに焼土は住居址中央付近と北東隅に認められた。柱穴は径25~35cm・深さ20cm内外のものが4個方形配列になり、南壁よりに2個の支柱穴がある。この住居址は火災にあっており炭化物・焼土等が多量に認められ、

また礫が散在していた。礫の一部には焼けているものもあり屋根材固定用のものであった可能性がある。

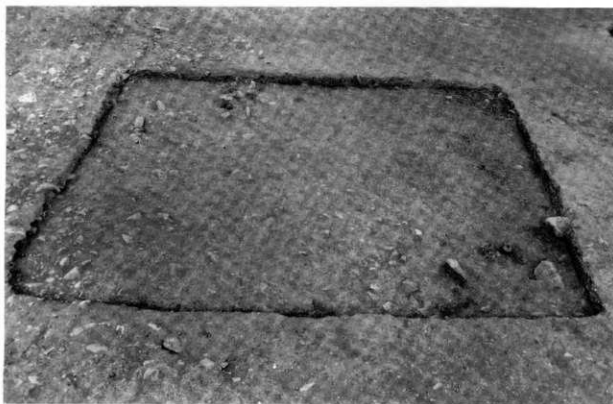
遺物 火災により放棄された一括資料である。器種には、壺(Ⅲ-36-1)、坏(2・3)・浅鉢類(4~12)・甌(13)・高坏(17)・甕(14~16)・ミニチュア土器がある。このほか鎌と思われる鉄製品(Ⅲ-231-15)・滑石製紡錘車(Ⅲ-230-5)・土製紡錘車(同7)・土製円板(Ⅲ-231-8)・滑石製小玉(Ⅲ-232-34)・獣骨等が出土している。また床面上に酸化鉄の小塊も散在していた。

(7) A16号住居址

遺構 調査区中央にあり、形態は隅丸方形を呈する。規模は南北軸が長く5.03m・主軸4.44mで、主軸方



Ⅲ-37 A16号住居址実測図



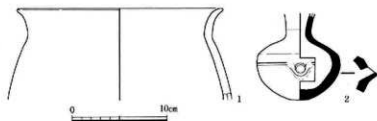
Ⅲ-38 A16号住居址

向はN-117-Eになる。カマドは東壁北寄りにあり焼土と2個の礫を残存する。掘り込みは東壁で深く15cmを測り、床面は平坦で礫の露出が少ない。柱穴等の施設は確認されなく、後出のものかと考えたが、カマド前面から須恵器壺が出土したり、遺物の多くは該期のものである点から古墳時代の遺構とした。

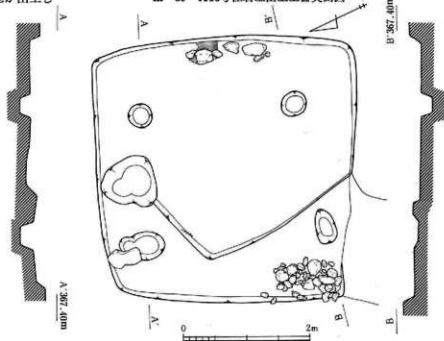
遺物 出土量は多くなく、Ⅲ-39で図示した土器はカマド周辺からの出土である。このほかに土師器内面黒色の坏・高坏・長胴甕、須恵器坏蓋・坏・甕片が出土している。また覆土より鉄鍍茶と思われる鉄製品(Ⅲ-232-8)がある。

(8) A19号住居址

遺構 調査区中央付近に



Ⅲ-39 A16号住居址出土土器実測図



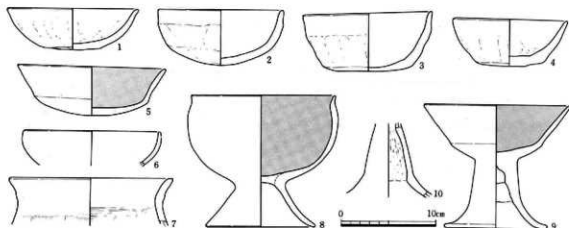
Ⅲ-40 A19号住居址実測図



Ⅲ-41 A19号住居址



III-42 A19号住居内集石



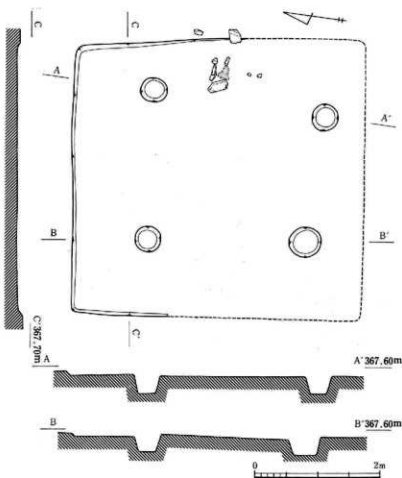
III-43 A19号住居出土土器実測図

位置し、A1号溝址と重複関係にあり、その新旧は確認できなかった。また住居内に10cm程の住居址形態の方形を呈する掘り込みが認められたが、検出面からこの落ち込みに接続する形態を把握することができなかつたので、本住居址の遺構とする。形態は隅丸方形を呈し、規模は主軸6.03m・短軸4.7mになる。主軸方向はN-112°-Eを指す。掘り込みは東壁で深く17cmを測り、北壁16cm・南壁12cm・西壁10cmである。床面は中央がやや凹み西壁寄りが高くなる。カマドは東壁中央付近に構築されるが調査時には焼土・構築用の礫の散在を見るにすぎなかつた。この周辺から遺物の出土が多い。柱穴は4個方形配列である。南西隅には礫の集石(III-42)があり、大と推定される頭骨が出土している。この遺構から時代を比定する遺物の出土はなく、平安時代のA1号住居址からも同様な頭骨が出土しているので同時期のものかもしれない。

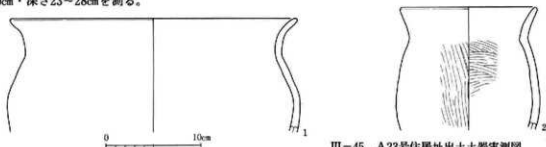
遺物 出土量はそれ程多くない。器種には、坏(III-43-1~6)・高坏(8~10)・甕(7)等の土師器の他に、須惠器坏蓋片1点がある。その他の遺物として網用浮として使用されたものと思われる軽石製品(III-231-10)、麻皮はぎ用鉄製工具(18)、大型獣骨片が出土している。

(9) A23号住居址

遺構 調査区上方に位置し、A20号・A24号・A25号住居址と重複関係にある。A20号住居址によって切られており、この住居址より古いことがわかるが、A24号住居址とは床面が同一レベルの検出であったので前後関係は不明である。調査した部分は住居址の西半分にすぎなかったが、形態は方形を呈するものと思われる。主軸規模は4.44mを測り、その方向はN-84°-Eを指す。検出面からの掘り込みは浅く、北壁7cm・東壁3cm・西壁2cmにすぎない。床面は平坦でやや西側に傾斜し、中央付近には黄褐色砂質土の貼り床が認められたが軟弱である。カマドは東壁中央に構築されるが、調査時では焼土と構築用礫が残存していたにすぎない。出土遺物の多くはこの周辺からのものである。柱穴は4個確認され不整形ではあるが方形配列になる。径40~50cm・深さ23~28cmを測る。



III-44 A23号住居址実測図

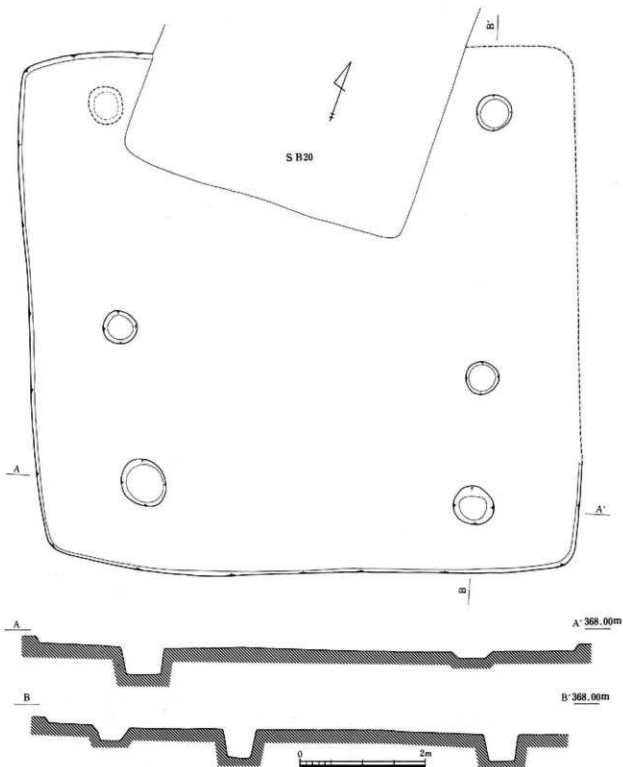


III-45 A23号住居址出土土器実測図

遺物 上層除去の際、覆土の多くは搬出されてしまったため、その出土量は少ない。器種には、甕(III-45-1・2)のほか内面黒色の平・高杯がある。このほか土製円板(III-230-19)・獣骨片が出土している。

(10) A24号住居址

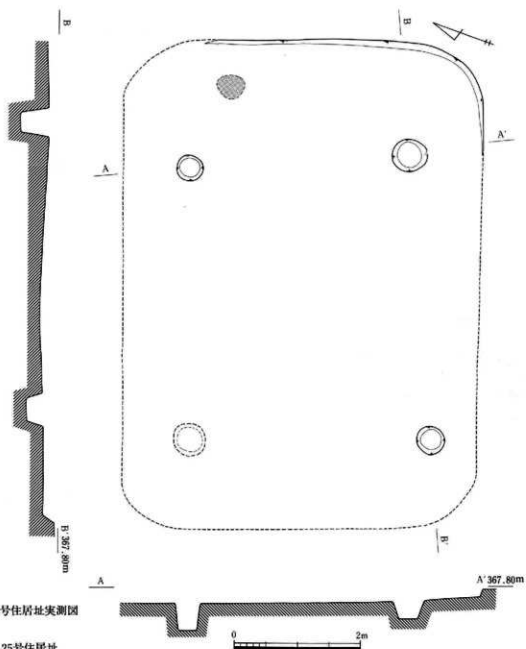
遺構 調査区上方の重複する住居址群の1つである。A20号住居址より古い住居址であるが、A23号・A25号住居址との関係は不明である。というのは本住居址とA25号住居址の覆土が同質同色であったので検出面からの形態把握ができなかったため、両住居址の調査を同時に開始したことによる。土層あるいは床面状況から判断できるものと考えたが、最後まで識別することができなかった。A23号住居址との関係は先に触れたので割愛する。形態は隅丸方形を呈し、南北軸8.36m・東西軸8.65mの規模のものである。南北軸方向はN-15°-Wである。検出面からの掘り込みは浅く、最も深い東壁で12cmを測る。床面は東側にやや傾斜するか平坦で西半分近くは礫の



III-46 A24号住居実測図

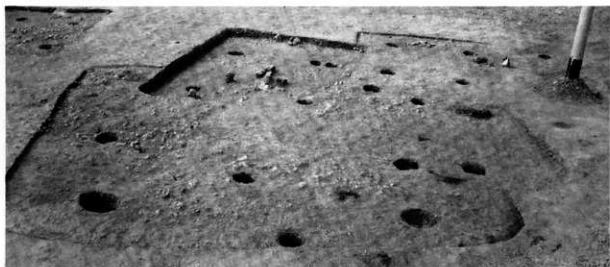
露出が目立つ。柱穴は5個確認したが、6本柱の小屋組を想定する。焼土等は認められなかったが、カマドの位置をあえて想定すればA20号住居址に切られた北壁ということになる。

遺物 A24号住居址と重複していると推定した範囲からの遺物をA24・A25号住居址として取り上げた。この所から土器の器種には、小形の鉢(III-49)・内面黒色の坏・同高坏・甕・長胴の甕片がある。出土量はそれ程多くないが高坏片が目立つ。A24号住居地からの遺物量は少なく、甕・坏片がある。



III-47 A25号住居址实测图

III-48 A25号住居址

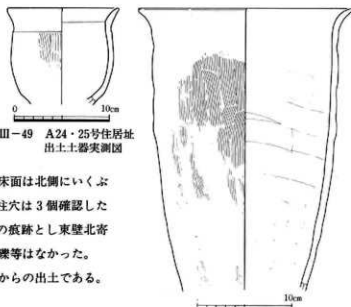


(II) A25号住居址

遺構 調査区上方の住居址群の1つで、その新旧関係は前述したとおりである。また本住居址として調査した部分は東壁際の一部分である。形態は残存壁・柱穴等から隅丸長方形を想定し、規模は柱穴から主軸7.8m・短軸5.7m前後と予想される。この住居址も掘り込み

は浅く、東壁11cm・南壁12cmを測るだけである。床面は北側にいくぶん傾斜するが平坦で北壁よりで礫が露出する。柱穴は3個確認したが4個方形配列になるものと思われる。カマドの痕跡し東壁北寄りに厚さ10cm程の焼土塊が認められたが構築用礫等はなかった。

遺物 出土量は少なく、ほとんどが焼土周辺からの出土である。器種には、甕(III-50)・環・高環がある。

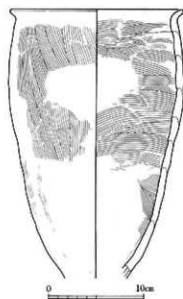


III-49 A24・25号住居址
出土土器実測図

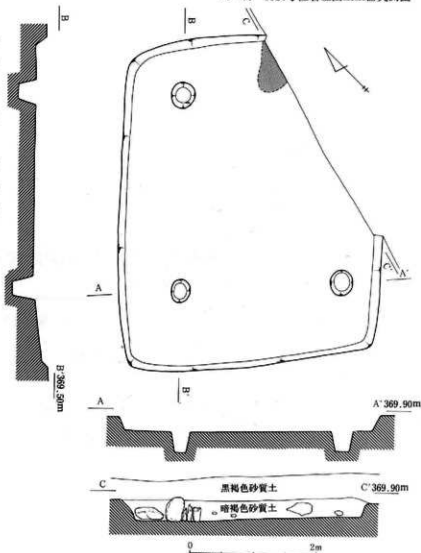
III-50 A25号住居址出土土器実測図

(II) B20号住居址

遺構 B調査区中央付近の下面からの検出である。北東付近は調査対象区域外へ延びる。検出面は砂利混り黄褐色砂質土層で、覆土が砂利混り暗褐色砂質土である。形態は隅丸長方形で、主軸5.28m・短軸4.18mの規模になる。掘り込みは南壁で最も深く23cmを測



III-51 B20号住居址出土土器
実測図



III-52 B20号住居址実測図



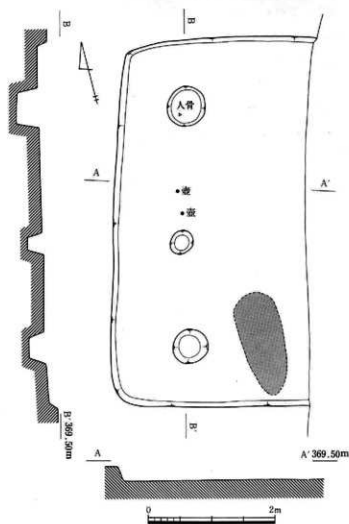
III-53 B20号住居址

るが、床面は平坦で暗黄褐色砂質土の貼り床が中央付近で認められた。カマドは北壁中央に構築され、石芯両袖形のものである。調査時にはどうゆう訳か右袖部のみが旧来のまま残存するが、左側部分は完全になくなっていた。右袖部を見ると壁に接して角礫が横転し、それに続く礫4個が立石の状態であった。焼土の厚さは3cm程である。柱穴は3個確認されたが4個方形配列になるものと思われる。径40cm前後・深さ17~23cmのものである。

遺物 遺物の出土量は少ない。器種には、長胴の甕(III-51)・瓶・内面黒色の杯・高坏等がある。中でも高坏片が目立つ。

(13) B21号住居址

遺構 調査地中央東端にあり、東側半分は調査区域外にある。形態は隅丸方形が推定され、南北軸(長軸)は5.9mの規模になる。主軸方向はN-15°-Eを指す。掘り込みは比較的深く、北壁24cm・南壁46cm・西壁44cmを測る。床面は中央部付近に貼り床が認められ堅緻かつ平坦であるが北側に若干傾斜する。炉と推定される焼土が南壁近い柱穴間に認められた。焼土はレン

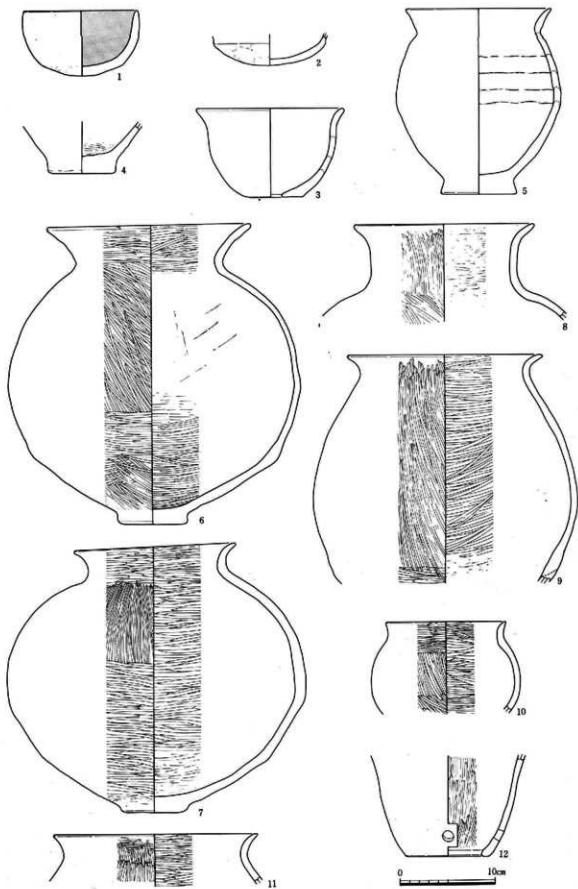


III-54 B21号住居址実測図

ズ状に堆積し厚さが5cm程あった。柱穴は3個確認されたが隅付近の径50~55cm・深さ26~34cmのものが主柱穴で、4個方形配列になるものと思われる。さてこの主柱穴間から2個の壺が正位に据付けられた状態で検出され、更に北西隅の柱穴上面には人頭骨が見られた。これらの遺物は本住居址に所属するものか疑問を持ったが、壺底部の設置に際し貼り床部を掘り込み周辺をかためてあったので一応この住居址のものと断定した。人頭骨だけの存在は理解できない。住居廃絶の後墓地としたものであろうか。



III-55 B21号住居址

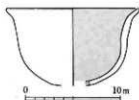


III-56 B21号住居址出土土器实测图

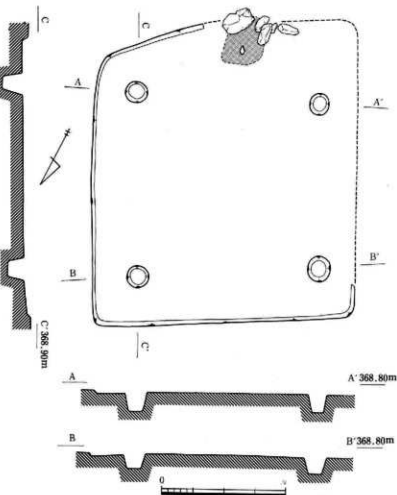
遺物 A32号住居址のものの混入を恐れるが、出土遺物としてIII-56に図示した。出土量は多くなく、この他の器種に高坏がある。覆土中より金環(III-232-27)・滑石製紡錘車(III-230-4)が出土している。

04 B23号住居址

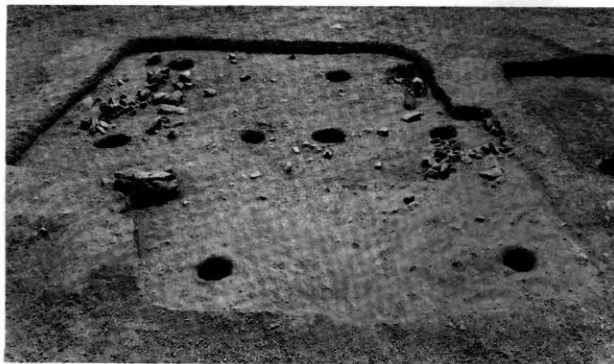
遺構 調査区下方に位置し、B24号住居址と重複するがこれよりも古い。形態は隅丸方形を呈するが南壁が幾分張り出して不整形になる。規模は主軸4.75m・短軸4.2mを測り、主軸方向をN-26°-Wにとる。検出面からの掘り込みは浅く、北壁4cm・南壁13cm・東壁4cm・西壁18cm



III-57 B23号住居址出土器実測図



III-58 B23号住居址実測図



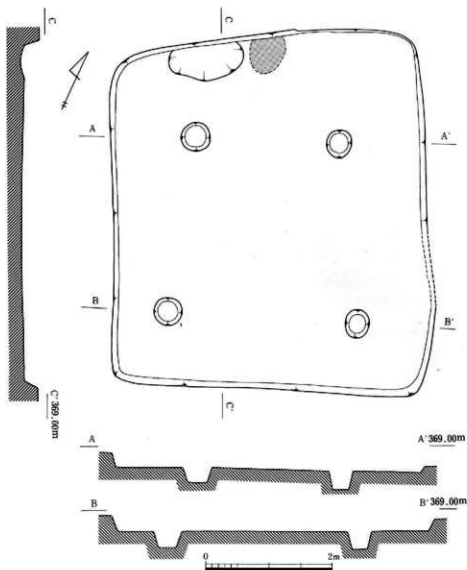
III-59 B23号・B24号住居址

にすぎない。カマドは南壁中央に構築され、焼土と構築用礫が残存していた。柱穴は4個方形配列である。

遺物 出土量は少ない。器種には、坏(Ⅲ-57)・甕・高坏がある。他に土製円板(Ⅲ-230-19)がある。

(5) B24号住居址

遺構 調査区下方にあり、B23号住居址と重複し、これよりも新しい時期のものである。形態は東壁の南側が幾分張り出しているが隅丸方形を呈する。主軸方向はN-60°-Wである。掘り込みは、北壁23cm・南壁20cm・東壁8cm・西壁23cmを測る。床面は平坦であるが礫が露出し東側へやや傾斜する。南壁よりの床面



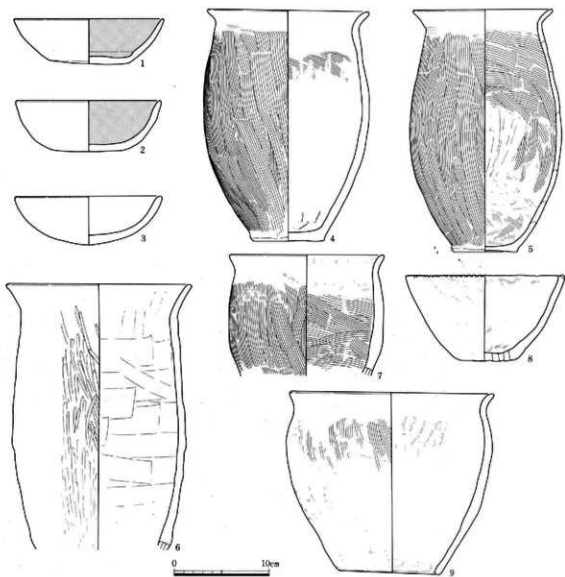
Ⅲ-60 B24号住居址住居址



Ⅲ-61 B24号・B23号・B29号住居址



III-62 B24号住居址土器出土状态



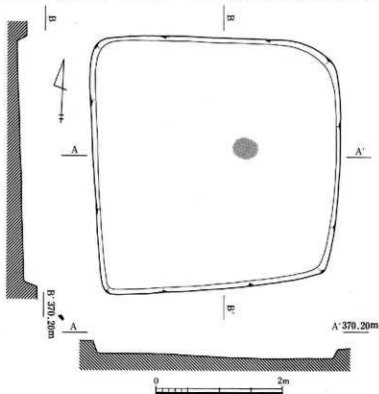
III-63 B24号住居址出土土器实测图

には性格不明の礫が散在していた。カマドは北壁中央に設けられ、焼土を残存するのみである。カマド左側に長軸1.2m・幅76cm・深さ8cm程の落ち込みがあり、III-62にみられるように土器を入れている。貯蔵穴であろう。柱穴は4個方形配列になる。径45cm前後・深さ23~28cmと割合均一である。

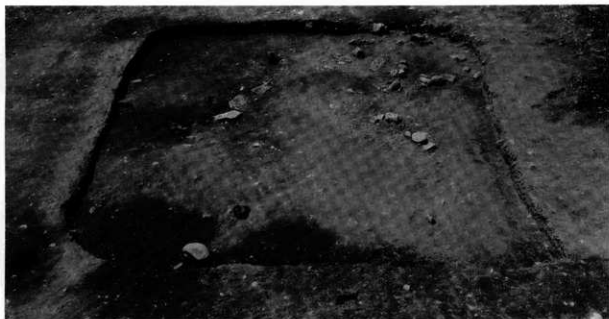
遺物 出土量は比較的多い。器種には、内面黒色処理されたものとされない坏類(III-63-1~3)・甕(4~7)・瓶(8・9)・高坏、須恵器蓋がある。カマド左側の貯蔵穴出土のものは、甕(4・5・7)・瓶(8・9)・坏(2)である。8の瓶は多孔式のもので浅鉢形を呈する。口縁部と思われる端部にヘラ切り様刻み目が間断なく施こされる。粘土紐積み上げにたいする接着効果のためと思われ、この口縁部は擬口縁であろう。甕の調整には、内外面ともハケが多用されるのたいし、6の甕の調整にはヘラ状工具によっている。

106 B28号住居址

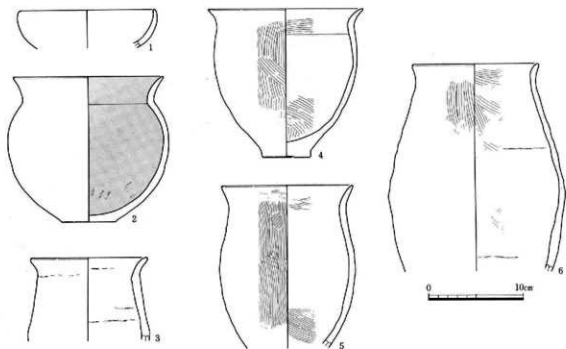
遺構 調査区中央付近から単独の検出で、B20号・B27号に隣接する。形態は東壁の短い隅丸台形を呈する。規模は西壁4.08m・東壁3.7mで、この両壁間3.93mになる。主軸方向はN-87°-Wである。掘り込みは、北壁19cm・南壁22cm・東壁15cm・西壁20cmを測る。床面は平坦であるが東・北側へ傾斜する。カマドの痕跡は確認できなかったが中央東壁よりに径45cm程の地床炉様の焼土が残存していた。柱穴はない。



III-64 B28号住居址実測図



III-65 B28号住居址

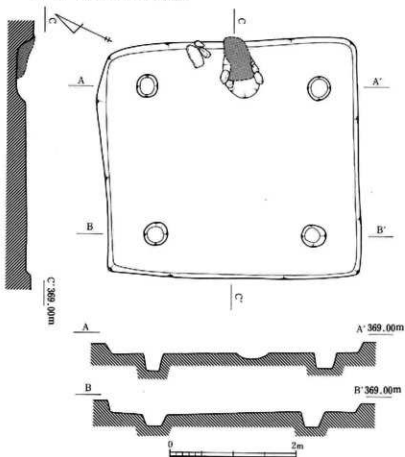


III-66 B28号出土土器実測図

遺物 出土量は多くない。器種には、坏(III-66-1)・小形変形の鉢(2)・甕(3~6)・脚部に透しを有する高坏・1孔の瓶、須恵器坏がある。このほかに獣骨片が出土している。

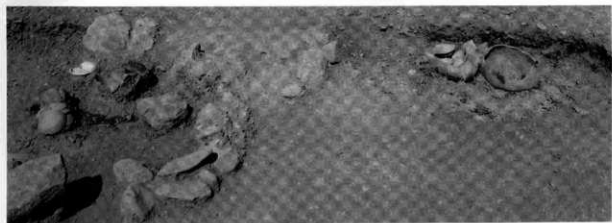
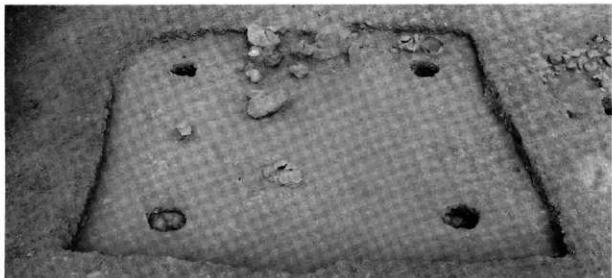
(17) B29号住居址

遺構 調査区下方に位置し、単独で検出された。近隣にB23号・B24号住居址がある。形態は方形を呈するが主軸より南北軸の方が幾分長い。主軸3.76mにたいし南北軸は4.06mを測る。主軸方向はN-64°-Eである。検出面からの掘り込みは浅く、北壁16cm・南壁14cm・東壁14cm・西壁20cmである。床面は平坦で礎の露出も少なく中央付近に貼り床の痕跡が認められた。カマドは東壁中央に構築され、多量の焼土と袖石が残存する。遺物のほとんどはこの周辺からの出土である(III-68)。柱穴は4個方形配列になる。径40cm前後・深さ14~20cmである。

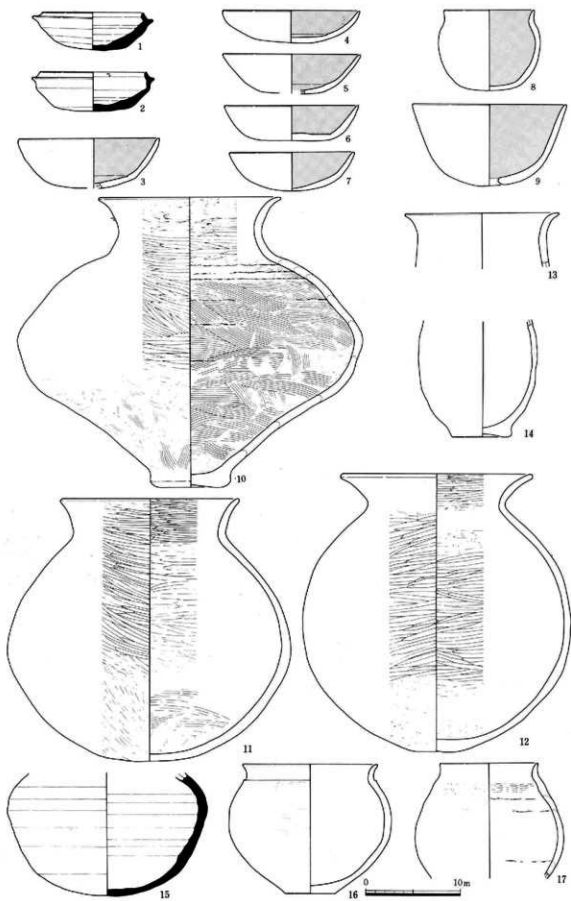


III-67 B29号住居址実測図

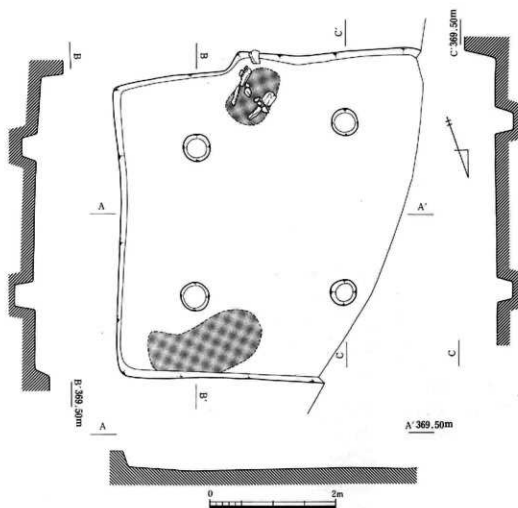
遺物のほとんどはこの周辺からの出土である(III-68)。柱穴は4個方形配列になる。径40cm前後・深さ14~20cmである。



III-68 B29号住居址、同遺物出土状態



III-69 B29号住居址出土土器实测图



III-70 B30号住居址实测图



III-71 B30号住居址

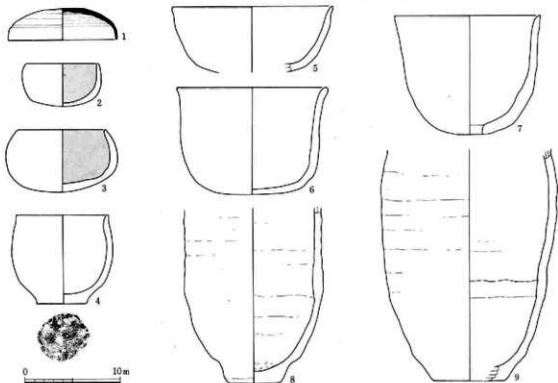
遺物 出土量は多い。器種には、須恵器環(Ⅲ-69-1・2)・小形壺(15)、土師器環(3~7)・鉢(8・16-17)・壺(10~12)・甕(13・14)・高環・埴等がある。壺の10・11はカマド右側に正位の状態で据置かれていた土器である。10は体部中央で算盤玉状に大きく張り出し、偏平な壺形態を呈し、当地域ではあまり見ない器形である。

08 B30号住居址

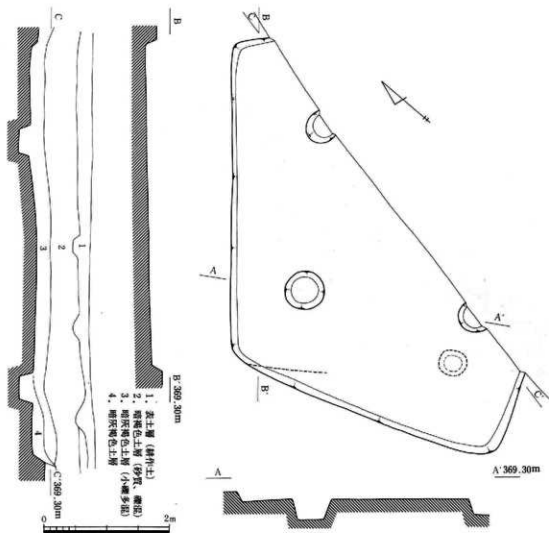
遺構 調査区下方に位置し、西壁付近の一部は農道下に延びるため調査できなかった。形態は南壁の一部が張り出す不整形を呈するものと思われる。規模は主軸5.17m・短軸4.9mで、主軸方向はN-20°-Eである。掘り込みは深く、北壁25cm・南壁50cm・東壁34cmを測る。床面は平坦で北側に傾斜する。カマドは南壁に構築され、立石芯の両袖形のものである。気になるのはカマドの方向が主軸線上になく東に振っている点と、焼土も同様であり、石芯外まで認められる点である。南壁の改修に



Ⅲ-72 B30号住居址カマド・土器出土状態



Ⅲ-73 B30号住居址出土土器実測図



III-74 B31号住居址实测图



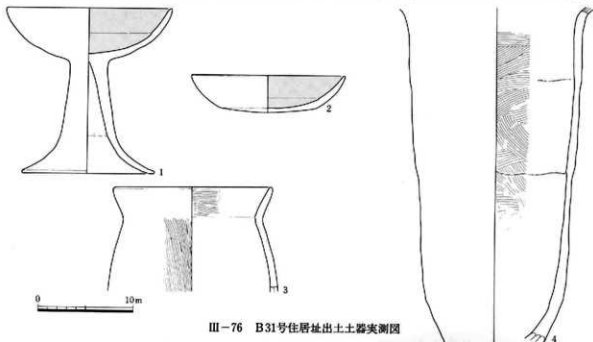
III-75 B31号住居址

合せ再構築されたものであろうか。柱穴は4個方形配列である。

遺物 器種には、須恵器蓋(Ⅲ-73-1)・坏・高坏・土師器坏(2・3・5)・鉢(4・6)・瓶(7)・甕(8・9)・高坏等がある。その他刀子(Ⅲ-232-22)・銅製角棒(Ⅲ-231-21)が出土している。

(9) B31号住居址

遺構 調査区の下方にあり、東側半分程は調査区域外へ延びる。Ⅲ-74の実測図によれば西壁が大きく張り出し台形状の形態になるが、柱穴のあり方から北西隅を共有する2軒の住居址が複合している可能性がある。ただ張り出した壁に対応する柱穴(鎖線)が1個確認できたにすぎない。柱穴の位置を考慮すれば、一辺5.1m前後の隅丸方形の住居址を想定する。西壁の規模は4.65m程である。掘り込みは、北壁15cm・南壁22cm・西壁18cmを測る。床面は平坦で西壁の張り出し範囲に礫の露出が認められ、また床面上に礫の散在が見られた。しかし張り出し推定部全



III-77 B33号住居址

面にあるわけではない。柱穴は最終的に4個確認されたが、径50～60cm・深さ27～32cmのもの3個が主柱穴であろう。鎖線で示した柱穴は、径45cm・深さ18cmである。カマドの所在は東壁か南壁にあるであろう。

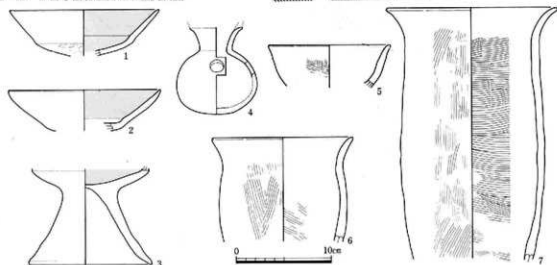
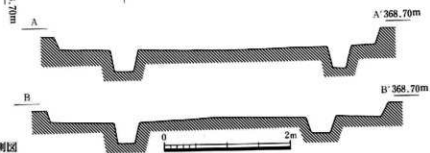
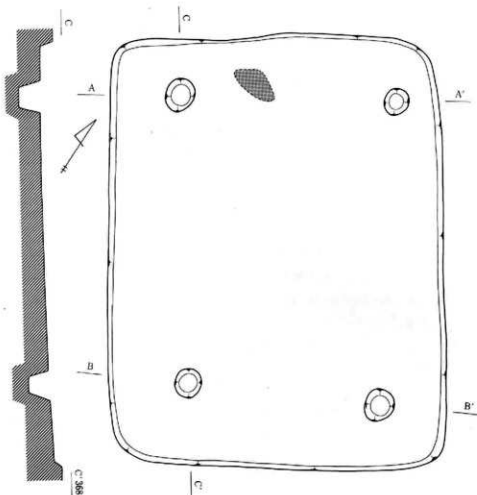
遺物 出土量はそれほど多くない。器種には、内面黒色の皿形環(III-76-2)・環部内面黒色の高環(1)・黒色処理されない環や高環・甌・甕(3・4)が見られる。

②0 B33号住居址

遺構 調査区の最も下方に位置し、単

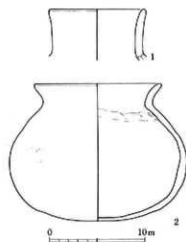
III-78 B33号住居址実測図

III-79 B33号住居址出土土器実測図

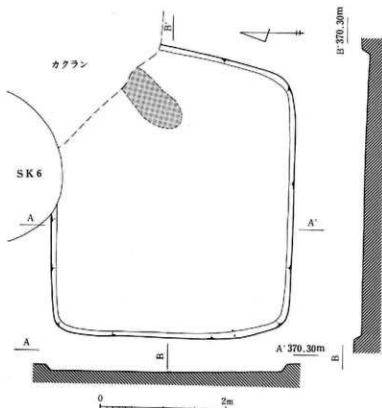


独検出の住居址である。上層遺構B1号・B2号住居址がある。形態は隅丸長方形を呈し、その規模は主軸6.93m・短軸5.33mである。主軸方向はN-56°-Eを指す。掘り込みは、北壁18cm・南壁20cm・東壁22cm・西壁15cmを測る。床面は中央部がやや凹むが、南壁添いの柱穴間外では逆に中央付近が高くなる。全体に礫の露出が見られ、何故に除去しないのか疑問に思う程である。また床面及び覆土中にも礫が一面に散在していた。カマドは北壁西寄りに構築されており、調査時では焼土と構築用礫が残存していたにすぎない。III-79に図示した土器類は、このカマド周辺より出土したものである。柱穴は4個確認され方配列になる。径40~50cm・深さ25~36cmのものである。

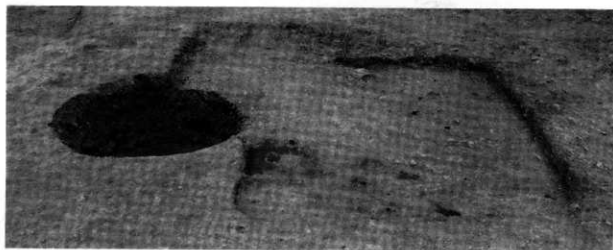
遺物 出土量は少ない。器種には、須志器杯・蓋、土師器杯(III-79-5)・内面黒色の杯・高杯(1-3)・甕(4)・甕(6・7)・甕がある。4の甕は白褐色を呈し、胎土も良選され、外面のミガキもていねいに仕上げ、在地の土器とは異質である。このほか覆土中より土製円板(III-230-14・15・20)が出土している。



III-80 B34号住居址出土土器実測図



III-81 B34号住居址実測図



III-82 B34号住居址、B6号土坑

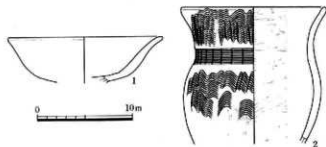
㉑) B34号住居址

遺構 調査区中央より上方に位置し、住居址としては単独で存在するが、B6号土壇により北壁の一部が破壊される。Ⅲ-82の写真に見られる中央上の掘り込みは、上層除去の際の試し掘りの跡である。形態は隅丸方形状を呈するが、東壁がやや張り出す。規模は、主軸4.61m・短軸3.86mの小形な住居址である。掘り込みは浅く、北壁9cm・南壁11cm・東壁11cm・西壁12cmを測る。床面は平坦で東側へ幾分傾斜する。カマドは東壁北寄りにあったものと思われる焼土を残存する。炉址かもしれない。柱穴は確認されなかった。

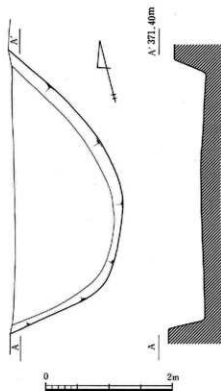
遺物 出土量は多くない。器種には、須恵器蓋、土師器坏・高坏・甕・埴(Ⅲ-80-1)・鉢(2)がある。このほか覆土中より柳葉形の鉄鏝(Ⅲ-232-3)が出土している。

㉒) B36号住居址

遺構 調査区上方にあり、農道のため西南隅の一部分を調査したにすぎなかった。形態は西南隅が大きく弯曲し、また東壁・南壁も内弯気味に調査区域外に延びているため推定いたしかねる。本遺構を古墳時代に比定するのはちゅうちょするところがあった。検出上面では、須恵器・土師器・灰輪陶器等の土器類が多く出土し、中層(覆土中位から下位の礫混り層上面)では少量ではあるが該期の資料を中心に得、礫混り層で弥生後期の土器を検出した。こ



Ⅲ-83 B36号住居址出土土器実測図



Ⅲ-84 B36号住居址実測図



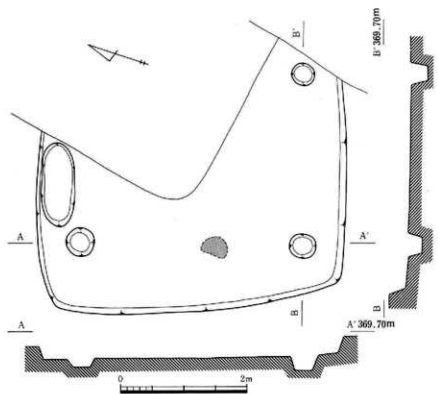
Ⅲ-85 B36号住居址

の遺構は三期の時代の複合遺構の可能性が高い。本遺構は覆土のあり方を重視し古墳時代のものとした。検出面から礫混り層下面までの掘り込みは55cm程になる。

遺物 古墳時代のものの器種には、坏・高坏（III-83-1）・甕等がある。同図2は、弥生時代後期の甕である。

㊦ B32号住居址

遺構 調査区中央付近にあり、B21号住居址と重複関係にあり、この住居址より古い。形態は隅丸方形を呈し、南北軸4.81mを測る規模になるが東西間（主軸）は不明である。主軸方向はN-54°-Eを指す。掘り込みは、北壁23cm・南壁33cm・西壁27cmを測る。床面は北及び東に傾斜しB21号住居址の床面と同レベルになる。床面より浮いた状態で中央より南側に工作台を思わせる平石と礫が集石している。柱穴は4個確認され方形配列になる。径35-44cm・深さ10-27cmのものである。西



III-86 B32号住居址実測図



III-87 B32号住居址出土土器実測図



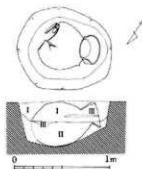
III-88 B32号・B21号住居址

壁添い柱穴間中央南寄りに40cm程の幅の焼土が認められ、地床炉の様相がうかがわれる。

遺物 出土量は少ない。器種には、須恵器甕(Ⅲ-87-1)、土師器甕(2)・坏・高坏がある。甕の底部にはタタキ目がある。このほかに土製円板(Ⅲ-231-4・5)が出土している。

②0 B9号土壙

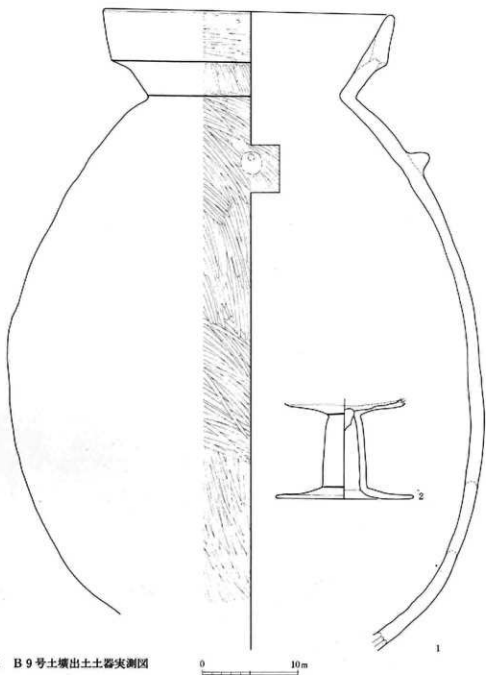
遺構 調査区中央に位置し、近隣の住居址にB21号・B31号住居址がある。検出面は暗黄褐色砂利混り砂質土である。形態は円に近い楕円形で、長軸1.0m・



Ⅲ-89 B9号土壙実測図



Ⅲ-90 B9号土壙土器出土状態



III-91 B9号土壇出土土器実測図

短軸の最大幅0.87mである。掘り込みは傾斜を有しており、最も深い部分は内蔵された土器との接着面で検出面から48cm程になる。内蔵された土器は横転した状態で検出され、ほぼ完形に近い形状を保っていた。口縁の欠損部は、上層除去作業中搬出され、もとは存在していたものと思われる。底部は当初より欠損していた。さてこの内蔵された土器内の土層をみると、ほぼ水平堆積である。覆土下層が暗黄褐色砂質土で、上層はこれより黄色の強い砂質土になり、土器内の堆積土と同じあり方を呈している。土器内では更に2層の粗い砂層を薄くはさんでいた。この堆積の状況から、この土器は瞬時に埋納されたものでなく、一定期間放置され自然堆積により埋没したものと推定される。尚土器内から骨等の出土がなかったが、底部付近より高環が破損状態で確認された。

遺物 III-91は大形の壺で口縁部は有段の複合口縁になり、最大径は体部下半にあり、ずんぐりとした器形になる。底部は欠損していたが、粘土紐接合部からの剝離で、意識的に打ち欠いた可能性が高い。体部外面はヘラ状工具により口縁部から体部下方まででいいいみがかれる。体部内面は第一次成形(器形完成)後、更に粘土を

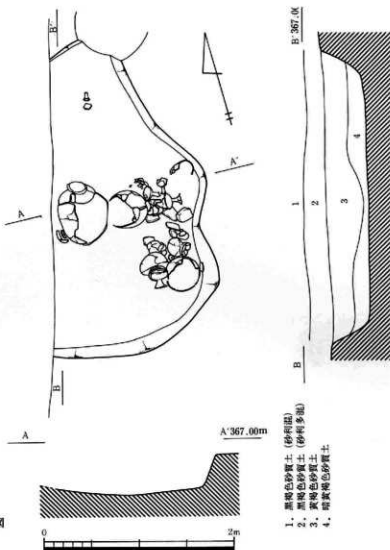
上塗りし補強しているが、この上塗り粘土の剥落が著しい。底面に鹿骨があった。2の高坏は脚部と坏部の接合を示す好資料である。接合には単独の所謂へソを脚部に押し込み、坏部との接着と坏底面の陥没防止の役割を果たしている。

図 B10号土壌

遺構 調査区中央付近に位置し、遺構の西側は農道下に延びるが、III-95の土層に見られるように下層の暗黄褐色砂質土が上昇して来ること、遺物の出土が認められないことからそれ程調査対象外へ延びるものとは思えない。検出面は砂利混り黄褐色砂質土で、覆土は黄色味の帯びた黄褐色砂質土になる。III-92の土層図は遺物を取り上げた後の調査壁から実測したもので、この土

III-92 B10号土壌実測図

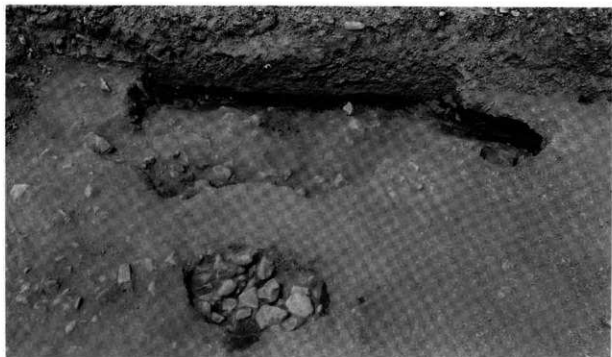
III-93 B10号・B11号土壌



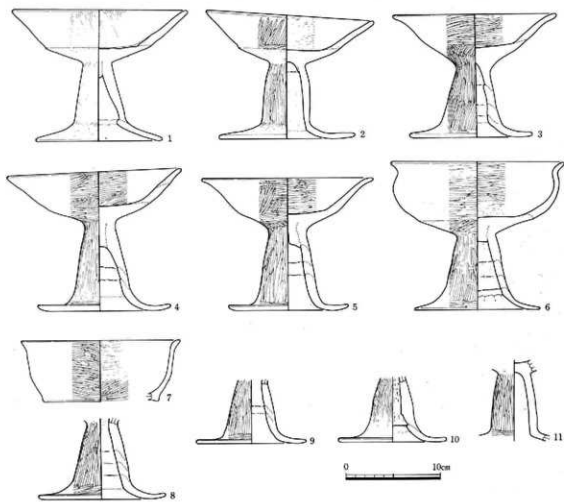


Ⅲ-94 B10号・B11号土壇

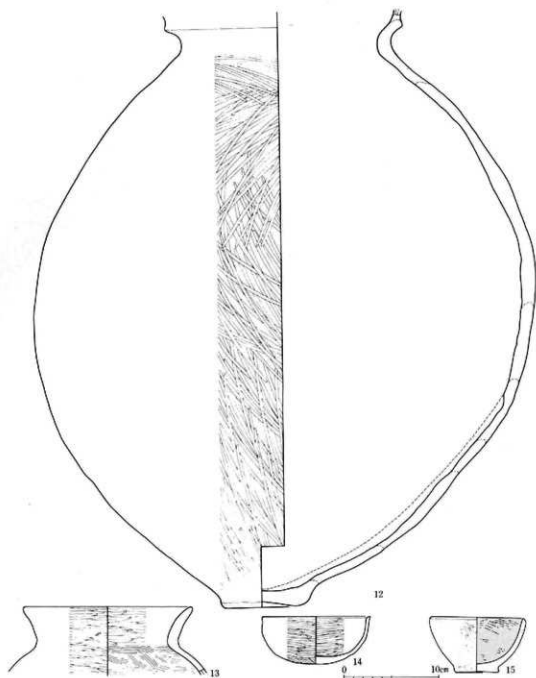
壇の底面は4層の暗黄褐色砂質土上面である。形態は南壁が素直に内弯しているのに対し、東壁は凹凸があり、北壁は鋭角をもって西(南)壁に結合する不整形なものになるようである。掘り込みは南壁で傾斜をもっているのに対し、他壁は直に近い。南壁10cm・北壁12cm・東壁17cmを測る。床面は東側に傾斜するが旧来は平坦でなかつ



III-95 B10号·B11号土坑



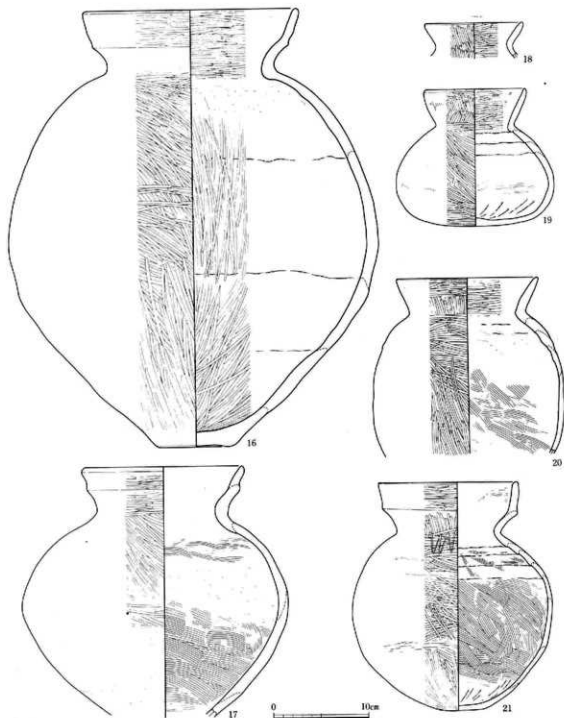
III-96 B10号土坑出土土器实测图(1)



III-97 B10号土壇出土土器実測図(2)

た可能性がある。というのは下層の砂質土が軟らかかったため除去してしまった懸念がある。土器は東壁下に集中して認められ、正位の状態で見られているもの、横転状態で出土したものかほとんどで逆転しているものはなかった。またほとんどが完形のままの状態で見つけていたものと思われ、壺の底部を欠くものはIII-98の17・20にすぎない。III-94の遺物出土状態写真での破損状態は検出面より上部位の欠損であり、いつかの時期に破壊されたものと思われる。III-97-13は上面にピット状遺構がありこれにより破壊されたものである。

遺物 土器の集中箇所から検出した遺物はほとんど完形に近いことは前記した。III-96-9～11及びIII-98-18の高環脚部・壺口縁部片は遺構内北側からの出土である。器種には、高環(III-96)・壺(III-97-12、III-98-16・17・21)・甕(III-97-13、III-98-20)・埴(III-98-18・19)・坏(III-97-14・15)がある。壺と甕の形態については口縁部形態で識別した。共に調整技法において変化がなく、外面はていねいにヘラミガキが施され、体部



III-98 B10号土壙出土土器実測図

内面の調整はハケによっている。III-98-16は内面にもヘラ調整が行なわれている。III-97-12は口縁部が擬口縁を呈し、その上方は当初から欠けていたようである。内面はB9号土壙出土の大形壺同様に体部内面に粘土の上塗りが施されており剥落が著しい。

26 B11号土壙

遺構・遺物 B10号土壙の東側に隣接する。形態は長軸1.1m・短軸0.74mの楕円形を呈する。深さは10cm程で底面は礫が露出する。この礫の上に壺が据置かれていた(III-93-94)が、この上をふみ歩いてしまったため細片化

し復元が不可能であった。器形等はB10号土壙と同様であり、この遺構との関連性がある遺構であろう。

㉑ B12号土壙

遺構・遺物 B10号住居址の北壁を切り込んでいる。形態は径75cm程の円形になり、深さ28cmを測る。覆土よりB10号住居址と同時期に比定される壺・甕・高坏片が出土している。

㉒ B13号土壙

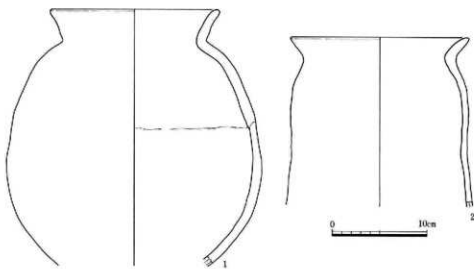
遺構 調査区上方のB36号住居址に近接してある。形態は長軸0.98m・短軸0.7m程の楕円形を呈する。深さは18cmである。

遺物 出土量は少なく、球形胴・長胴の甕(III-99)、甌の把手が出土している。

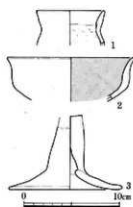
㉓ A1号溝址

遺構 A19号住居址と重複関係にあるが、新旧関係は不明である。幅2m前後、深さ20cm程の浅い大きなU字形になる。確認した溝の長さは約6mである。

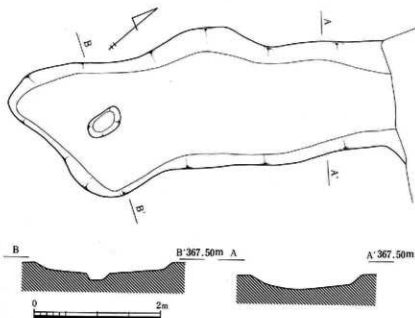
遺物 出土量は少ない。器種には、小形甕(III-100-1)・内面黒色処理された坏(2)・高坏(3)・甕がある。



III-99 B13号土壙出土土器実測図



III-100 A1号溝址出土土器実測図



III-101 A1号溝址実測図

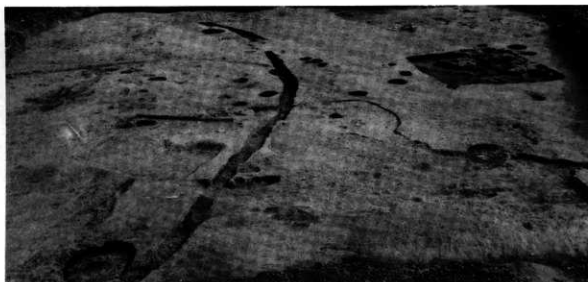
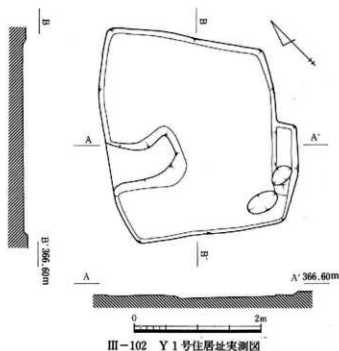
5 奈良・平安時代の遺構と遺物

この時代の遺構と遺物は調査地域全面に展開している。またそのほとんどが上面層での検出で、下面からのものは上面で確認できなかったものと推定している。ただB地区上方では、試掘等により下面には礫・砂利層になり、他時期の包蔵層がないとの認識のもとに10cm程上面土砂を除去したにすぎず、大きな番号を付したものの上面遺構として把握している。検出面は、砂利混り暗黄褐色砂質土層で、覆土が黒褐色砂質土を基本としている。調査で確認した遺構数は、住居址39軒、土壇墓1基・土壇8基、溝址2ヶ所、柱穴群3ヶ所、集石址3ヶ所である。以下検出遺構を下方地区から番号順に記載する。

(1) Y1号住居址

遺構 調査区下方にあり、Y1号溝址をはさんでY2号住居址と隣接する。検出面は粘性の強い黄褐色砂質土で、覆土は黒褐色砂質土である。形態は方形を呈するが、北壁の東隅が一部張り出し、南壁からは検出面レベルで住居址内に橋状に突出する部分がある。この部分は入口の施設であろうか。規模は南北軸3.12m・東西軸3.05mで、掘り込みは浅く、北壁7cm・南壁5cm・東壁5cm・西壁6cmを測る。カマド等の痕跡は確認できなかった。

遺物 出土量は少なく、図上復元できるものはない。須恵器変・坏、土師器変・坏の器種が出土している。少量の獣骨がみられた。



II-103 Y地区遺構全景

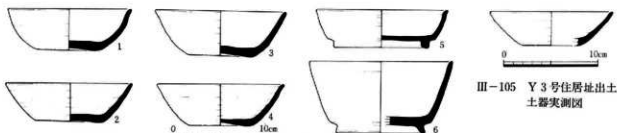
(2) Y 2号住居址

遺構 Y 1号住居址の西に近接している。調査当初隅丸長方形になるであろうと推定したが、覆土の同質性をもとに床面から追求したところ住居形態とは思われない不整形なものになってしまった。カマドの所在が確認できなかったことから住居址でない可能性もある。ただ東・南壁の一部は直線的で隅丸方形態であるので一定住居址として取り扱う。掘り込みは2~5cmと浅いもので、不整形部分の床面は幾分凹み、礎が露出する。

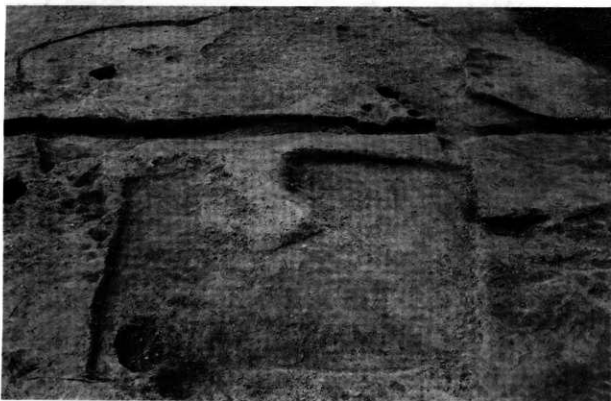
遺物 はほぼ全面から出土したが、少量である。器種には、須恵器環(Ⅲ-104-1~4)・高台付坏(5~6)・甕・蓋、土師器環・甕等がある。

(3) Y 3号住居址

遺構 調査区中央にあり、Y 5号住居址に近接する。この住居址の覆土は黒褐色砂質土で、検出面直下に堅くしまって床面状を呈し、西壁にみられる突出部との土質に差があったので、更にこの堆積土を除去した後のものを実測図・写真で示した。この姿が本来のものであったのか、竪穴を作る途中のものであるのか不明である。形態は方形を呈し、南北軸3.91m・東西軸3.69mの規模になる。掘り込みは、北壁10cm・南壁12



Ⅲ-104 Y 2号住居址出土土器実測図



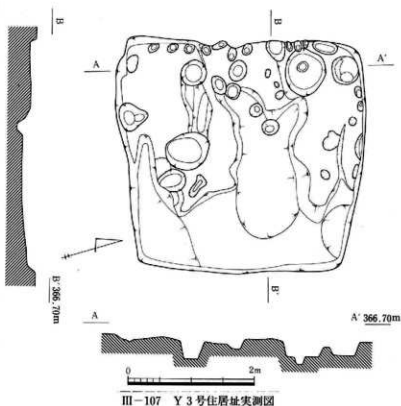
Ⅲ-106 Y 1号・Y 2号住居址、Y 1号溝址

cm・東壁13cm・西壁4cmを測る浅いものである。東壁側の床面は平坦であるが、西側は検出面と同質の土が住居址内へ突出し、大小の柱穴様ピットが数多く確認される。また西壁・北壁直下に20cm内外の小ピットがめぐっている点注目され、西壁よりには主柱穴と見られる大きなピットがある。カマドの痕跡は認められなかった。

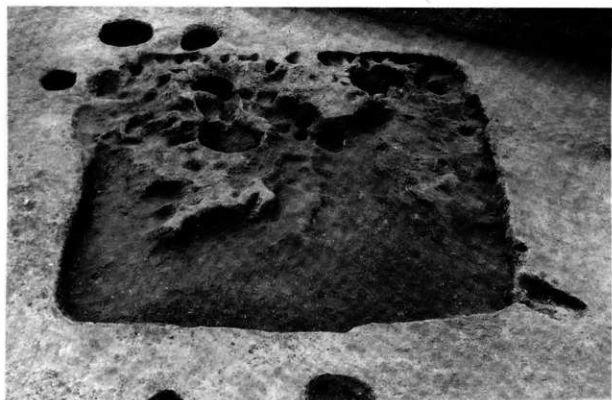
遺物 出土量は少なく、すべて上面からの出土である。器種には、須恵器環(III-105)・甕、土師器環・甕等がある。

(4) Y 5号住居址

遺構 調査区の南側にあり、Y 3号住居址に近接する。検出面・覆土は、Y 3号住居址と同質土層である。形態は不整な長方形を呈する。長軸(南北軸)6.58m・短軸3.76mの規模で、掘り込みは浅く、北壁3cm・南壁6cm・東壁3cm・西壁3cmにすぎない。北壁の中央がピット状に張り出す。柱穴やカマドの焼土は確認されなかった。床面は平坦でやや南側に傾斜する。床面中央に礫の集積が認められ、熱を受けた



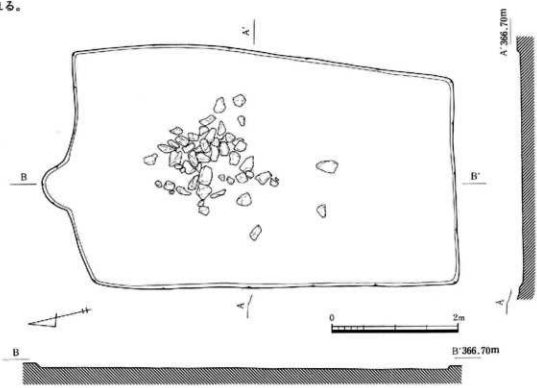
III-107 Y 3号住居址実測図



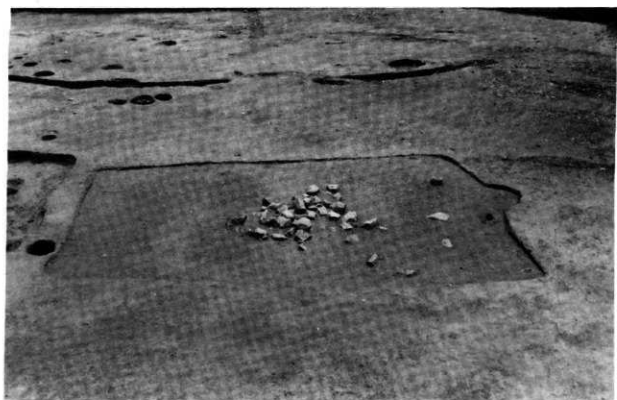
III-108 Y 3号住居址

痕跡を有する礫も混り、用途は不明である。

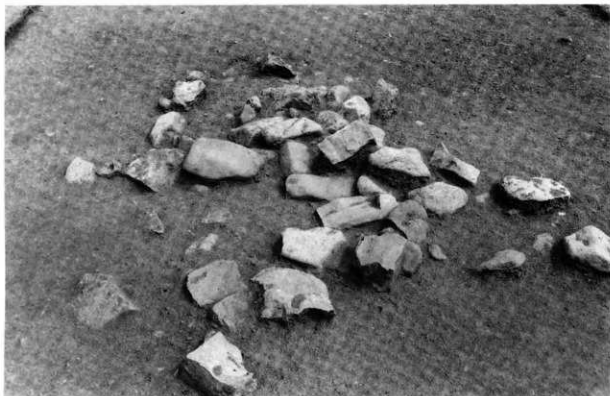
遺物 主として集石内及びその周辺から出土しているが、その量は少ない。器種には、須恵器杯(Ⅲ-113-1・2)・蓋、土師器杯(内面黒色)・甕等がある。甕の体部にはヘラケズリが施こされ、薄手の所謂武藏型のものも認められる。



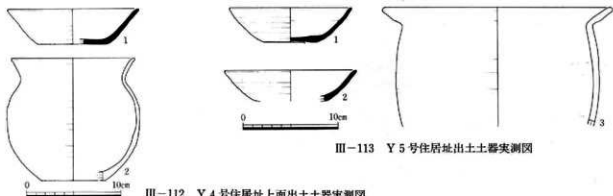
Ⅲ-109 Y5号住居址実測図



Ⅲ-110 Y5号住居址、Y1号溝址



Ⅲ-111 Y 5号住居址内集石



Ⅲ-113 Y 5号住居址出土土器実測図

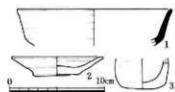
Ⅲ-112 Y 4号住居址上面出土土器実測図

(5) A 1号住居址

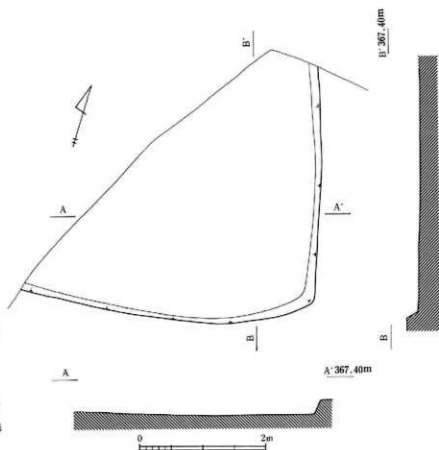
遺構 調査区の北端に位置し、住居址の北西半分以上が調査対象区域外へ延びる。A 2号住居址と重複関係にあり、A 2号住居址内の集石が本住居址内に認められないことからA 2号住居址廃絶後に構築される。周辺の住居址とともに検出面は、地表下45cm程の砂利混り黒褐色土層であり、覆土は更に黒味の帯びた暗褐色砂質土で砂利を多く混入している。床面の土層は黄褐色砂質土になる。形態は隅丸方形を呈するものと思われるが、南壁は内湾気味になる。規模等は不明。掘り込みは傾斜を有しており、南壁17cm・東壁21cmを測る。床面はほぼ平坦であるが東及び北側に傾斜する。カマドは調査範囲内に存在しなかったが、東南隅に床面から礎が露出している部分(Ⅲ-116)より10cm程上面に焼土が広い範囲で認められた。この焼土の存在から上層に他の遺構の存在が考えられる。ただこれに伴う掘り込みが確認できなく、出土遺物も一括して本住居址に所属するものとして取り上げてしまったので、遺物図(Ⅲ-114)中でも新旧の混乱が認められる。

遺物 出土量は多いものの、そのほとんどが破片出土であり、図上復元できるものはⅢ-114で示した3個体分

にすぎない。器種には、須恵器環(1)・蓋・甕、土師器環・大中小の甕・羽釜、灰釉陶器碗がある。2の小皿(カワラケ)は上層の焼土付近から出土したもので後出の土器である。灰釉陶器片の中には猿投窯系のものが1点出土している。このほか用途不明の釘状鉄製品(III-231-24)、犬と思われる頭骨等が出土している。



III-114 A1号住居址出土土器
実測図



III-115 A1号住居址実測図



III-116 A1号住居址